

27X
21
49

八
百
紀

二十三
戰畧 關原上
續集

武家事紀

續集 卷二十三

武家事紀卷第二十三目錄

續集



戰畧

關原上

自慶長五年正月迄八月
附 景勝等押 取々番手



[Faint, mostly illegible handwritten text in the left margin, possibly bleed-through from the reverse side.]



武家事紀卷第二十三



武家事紀卷第二十三

續集

戰畧 関原 上

慶長五年正月元日源君大坂西九ニテ御越年豊臣秀頼卿ニ御對面年始ヲ賀シ玉フ而メ天下ノ大小名西九ニアツマリテ年始ノ拜禮アリ

廿九日上杉景勝參勤延引ニ付テ風説不止是ニ由テ實否ヲ糺レ且景勝ヲ諷諫ノタメニ源君ヨリ伊奈圖書ヲ會津ニツカワサル圖書今日會津ニ下向

三月森右近大夫忠政ニ川中嶋ヲ賜フ川中嶋ハ元森武藏守長一平信長ヨリ賜ルトイヘ氏信長被弑ノトキ川中嶋

ラステ、上洛ソノアトヲ上杉景勝領ス、景勝会津へ取替
ニ付テ、川中嶋松城ヲ田九中書ニ賜リ、飯山ハ関長門守ニ
賜ル、森ハ美濃金山ニ在城ス、今年春旧領川中嶋ヲ忠政
ニ賜テ、関田丸ハ美濃ノ土岐多羅岩村ニ所カヘス、此時
関カアツカリ領善光寺ノ近所カジロト云処ニ佐野理左
衛門尉ソノ比号ハ左衛門尉居タル屋敷ヲ百姓氏一揆ヲ起シトリ、
夕理左衛門尉第七左衛門尉ト云モノ精兵ノ射手ニテ、
一揆氏十七人マテ射タラス、コレニ因テ、一揆シラムニ付無
難引取也、森忠政取替ノ後、右ノ一揆氏ヲ改メ八十餘人
川中嶋ニハタモノニカクル也

夏四月カサ子テ上杉景勝遲参ヲ諷諫ノタメ豊光寺允長
老方ヨリ景勝カ家臣直江山城守兼一作景継継カ方マテ、四月朔
日、各ヲツカワス、兼継カ返簡、今月末ニ上著書面甚無禮
ソノ上景勝別心ニ疑テケレハ、乃景勝退治ノタメ、源君会
津へ御出馬ノ義定レリ

五月七日奉行 德善院 玄以法印 増田右衛門 中老 堀尾帶刀吉

助正 成中村 式 尉長 盛長 末木 藏木 輔正 家 各連判ノ各付ヲ源君へ捧ケ奉リ、上杉

誅伐ノ事今年ハ先延引アラレシ、可然、直江兼継一向
ノ田舎人ユヘ萬事不調法ノ、多ケレハ源君憤ヲヤメ玉ハ
シ、一ヲ云、源君不肯 ウケカイヤハ

六月六日大坂西丸ニライテ上杉景勝征伐ノ評議アツテ

四方ノ寄手ヲ定メラル大手白川口ハ源君并秀忠卿

結城三川守秀康下野守忠吉秀忠卿信夫口ハ伊達政

宗在大坂米沢口山形出羽守義光在大坂山北ノ諸將南部

津輕戸沢六郷等津川口ハ前田肥前守利長同能登守利

政堀越後守秀治并與力侍也セトク山東口ハ佐竹右京大夫義

宣也七月廿一日大手搦手一度ニ牒レ合セ可押入ト相

究リ東國奥州北陸道ノ諸將其外軍勢皆暇ヲ賜ル

九日源君伏見城ニ御留守居ヲ定メラル本丸領下野矢作ニ鳥井彦

右衛門尉元忠西丸領上総佐貫二万石ニ内藤彌二右衛門尉家長大手ハ松

領壹万石 領相州小美川城

平主殿頭家忠松ノ丸領上州三ノ藏五千石ハ松平五左衛門尉近正也秀頼卿

ヨリ若狭少將豊臣勝俊後號長嘯大將ヲ兼テ西丸ニ居ス大

坂西丸神君勅定奉行ニ佐野肥後守元綱御留守ヲツトム源君渡部半藏

守綱ニ南蠻鎧ヲ賜且足輕五十人ヲ加賜フ以上百人

十六日源君大坂ヲ立テ伏見城ニ至リ玉フ此処ハ大坂ヨリ

堀田圖書盛重伊藤丹後守兩人来リヒツカニ壬戌逆心

ノ一ヲ告奉ルコノユハニ伏見ニ一日御逗留アツテ御留守

ノ一ヲ委ク命セラレ十八日大津ニ御著京極宰相高次カ

館ニライテ饗應アリ今日ハ石部ニ御寄宿復東大藏太

輔正家父子コニ来謁メ明日水口ニライテ御膳ヲ可上

一ヲ約シテ歸ルソノ夜丑ノ刻ニ石部ヲ夕、セ賜テ夜中ニ
水口ヲ通ラセ玉、復東カ元へ御使アリ、路次ヲイソカセ玉フ
ユヘニヨラセ玉ハサルト也、乃國光ノ御腰物ヲ被下、正家モ
土山マテノ見ヲクリニ出、十九日勢州関地藏九里半 二十日同
州四日市場六里半 拾四町 今晚四日市場ヨリ御船ニ召レ二十一日
ノ晚ハ三州篠嶋ニ御船ヲ掛ラレ、田中兵部御膳ヲ上、曉
同州吉田ニ御着、船池田三左衛門尉御膳ヲ上、遠州白須
賀ニ御泊四里半 二十三日濱松城ニツイテ堀尾信濃守
御膳ヲ上、同州中泉ニ御泊七里二町 二十四日中山ニテ
山内對馬守昼御膳ヲ上、駿州嶋田ニ御泊八里大 廿五日
今切船アリ 廿五日

駿府二丸中村式部少輔家老横田内膳カ宅ニテ御膳ヲ
召上ラレ、御膳過テ中村式部少輔一氏カコニ乘リ十カラ
御前へ伺候、源君一氏カ病体ヲ御覽アツテ大ニ驚玉フ、十
氏モ涙ヲ十カシ拜ニ奉ル、舌内モ不正也、駿府御着座ノ
中御供ノ衆鞠子ヨリ先へ參ルマシキ由命セラレ、ユヘニ御
人数多シ、今晚同州清見寺ニ御泊十里 八町 二十六日沼津ニ
ツイテ中村彦九衛門尉御膳ヲ献上、本多佐渡守大久
保相模守其外御家人コレマテ御迎ニ来ル、其晚三嶋ニ
御泊十里半 富 二十七日相州小田原七里十六町 二十八日
同州藤沢八里二町 二十九日鎌倉へ渡御也
馬入川アリ

廿五日水野和泉守忠重池鯉鮒ニライテ加々ノ并弥八郎
 カタメニ殺害セラル初堀尾帶刀吉晴会津供奉ノ夕メ越前
 府中ヨリ出テ子息信濃守カ濱松ノ城ニライテ源君ニ拜
 謁ス吉晴一直ニ府中ニカヘリ三成カシカタラ可考由命セ
 ラレケレハ帶カ府中ニカヘルヲ薙屋ノ城主水野和泉守
 池鯉府ニ出テフルマフ加々并弥八郎モコヘ出合テ食後
 日暮前ニ弥八郎忠重ヲ擊殺ス帶カ乃弥八郎ヲツキフス
 或云水野家臣鈴木野カ家臣帶カカ処為カト疑テ帶カ
 木與八郎殺之ニ切テカ、リ疵ヲ蒙ル帶カ燭ヲフミケレンノコトハリ
 フ云漸外へ出テ岡崎ニ入吉晴乍蒙疵外ニ出ツ家人伊奈伊織
 調護之長刀持ノ肩ニ引掛至岡崎

長刀持後改森閑
 右衛門為士列

七月朔日源君金沢御一覽二日ニ江戸御着

会津御征伐ニ付大坂御進發ノ時御家人供奉ノ人々ハ

肥後守直親之男
 井伊兵部少輔直政 上州高崎 十二万石

忠勝之男
 本多美濃守忠政

七郎右衛門尉男
 榊原式部太輔康政 上州館林 拾万石

河内守重忠男
 酒井右兵衛大夫忠世 武州川越 内五千石

相模守忠隣男
 大久保加賀守忠常

美作守信昌男
 奥平大膳大夫家昌

右近大夫貞慶子
 小笠原信濃守秀政 下総古河 二万石

平八郎忠高之男
 本多中務太輔忠勝 上総大多 喜拾万石

忠勝次男
 本多内記忠朝 後號出 雲守

左衛門忠次男
 酒井宮内太輔家次 上州碓水 三万石

五郎左衛門忠勝男
 大久保次右衛門忠佐 上州蒙原 五千石

九八郎貞能男
 奥平美作守信昌 上州宮崎 二万石

平岩主計頭親吉 上州厩橋 三万石

小笠原掃部大夫信嶺 武州本庄 一万石

竹谷玄蕃允清善子

松平玄蕃允家清

武州八幡 一万石

同未女氏鉄

後改左門

本多上野介正純

忠成男

青山伯耆守忠俊

伊豫守正勝男

阿部備中守正次

高力左衛門大夫長房

武州岩槻 二万石

大須賀出羽守忠政

立即左衛門康高男

上總久留 利三万石

松平内膳正忠吉

上州松山 一万石

石川長門守康通

日向守家成男

上總鳴戸 二万石

此外御供若干也

戸田左門一西

武州久下井 五千石

本多佐渡守正信

上總長南 一万石

青山常陸介忠成

相州中郡 五千石

松平和泉守忠次

上州郡波 一万石

本多豊後守康重

上州白井 二万石

菅沼大膳亮定利

上州吉井 二万石

内藤三左衛門信成

豆州韭山 一万石

天野三郎兵衛康景

駿州高國寺 但関原以後領

本多縫殿介康俊

上總佐倉 領ノ内

允諸大小名順路ヲ歴テ奥州ニ趣ク人々

左衛門正信男

福嶋左衛門大夫正則

尾州 清洲

同掃部頭正頼

勢州 長嶋

池田備中守長吉

同州鳥取六 万五千石

同吉左衛門尉

順慶子

筒井伊賀守定次

伊州上野 八万石

田中兵部少輔吉政

三州岡崎 十万石

長岡越中守忠真

丹後及豊 後杵築

山内對馬守一豊

同州掛川 六万石

有馬玄蕃頭豊氏

則頼男

武州久下井 五千石

本多佐渡守正信

上總長南 一万石

青山常陸介忠成

相州中郡 五千石

松平和泉守忠次

上州郡波 一万石

本多豊後守康重

上州白井 二万石

菅沼大膳亮定利

上州吉井 二万石

内藤三左衛門信成

豆州韭山 一万石

天野三郎兵衛康景

駿州高國寺 但関原以後領

本多縫殿介康俊

上總佐倉 領ノ内

同刑部大夫正之

池田三左衛門尉輝政

三州吉田 十五万石

同與市郎長幸

京極修理大夫高政

信州飯田 八万石

浅野左京大夫幸長

彈正長政ノ男

同民部少輔長顕

堀尾信濃守吉氏

遠州濱松 十二万石

有馬法印則頼

遠州横須賀 三万石

中村一角一忠

駿州府中 二十万石

中村一氏病 死菅沼新八

即定仍在番
駿府及真國
寺定仍者
寺定孟子

一氏弟

中村彦右衛門尉一榮

駿州興國
寺城主

源介虎高男

藤堂佐渡守高虎

豫州

高虎養子

藤堂宮内高貞

教高入道如水子

黑田甲斐守長政

豐前

三之丞某之男
阿波守家政男

加藤左馬助嘉明

豫州真崎
十萬石餘

蜂須賀長門守至鎮

阿州德山
十八萬石餘

生駒讚岐守正俊

讚州高松
十七萬石

寺沢志广守廣高

肥州唐津
十二萬石餘

富田信濃守知信

勢州津
七萬石

古田兵部少輔信勝

勢州松坂
五萬四千石

稻葉藏人通茂

同州田丸四萬五千石
居城勢州岩手

織田有樂長益

有樂男

織田河内守長孝

長近男

金森出雲守重頼

昌時子

德永九馬助畠重

中喜多安心入道子

宇喜多九京亮成政

初秀家
家臣

金森法印長近

俗名牛郎八彈州
高山三萬八千石

德永下總入道法印畠時

濃州
松木

九鬼長門守守隆

勢州
鳥羽

户川肥後守正利

同上

本多因幡守正武

初號半左衛門尉
和州高取三萬石

松倉豊後守重正

初名
右近

分部左京亮政壽

勢州
上野

古田織部少輔重勝

小出遠江守吉胤

市橋下総守正総

尾州
今尾

兼山相模守一貞

紀州
八内

龜井武藏守政直

石川伊豆守貞政

船越五郎左衛門

池田備後守知政

池田弥右衛門尉

佐久間河内守政實

三好新左衛門尉

同為三

津田小平次

神保長三郎

秋山右近

中川半九衛門尉

赤井五郎作

兼松又四郎

山名彈正但禪高量園欽

西尾豊後守忠照

極樂院

山岡修理

岡田藤五郎

柘植平右衛門尉

別取孫二郎

村越兵庫頭

岡田助左衛門尉

長谷川甚兵衛尉

山岡道阿弥江州侍俗名八郎左衛門尉

松并平左衛門尉

岡田小五郎

能勢次左衛門尉

箸尾半左衛門尉

鈴木越中守

水野河内守清忠

大谷刑部少輔吉隆後三成與入

前田玄以養子

羽柴左近大夫秀俊道引歸手成子丹波曾山五万石

一柳監物直盛濃州黒田

天野周防守景俊

京極丹後守高智

河村助左衛門尉

佐藤三河守

中川助左衛門尉

平野九九衛門尉長重刺髮号長元

中村丈藏

佐久間久右衛門尉安次初柴田勝家臣也

伯耆守教正男

石川玄蕃允康長信州松本八万石

津田長門守信成

秋田城介實季羽州窪田

奥平藤兵衛九月十五日秀秋へ使三行途三丁打死母儀三百依賜ル

山城宮内少輔

丹羽勘介氏定源君ノ御家人

大嶋雲八

落合新八

能勢惣左衛門尉

同源六

清水小八郎

園部法奇

溝口源太郎

堀田推八

野間久右衛門尉

伊丹兵庫

野尻喜太郎

仙石少貳

洛泉院

佐々談路守行政

秀吉公ノ
鷹師頭

堀田若狭守重氏

秀吉公ノ
鷹師頭

森惣兵衛尉

此外人数若干也

源君会津御征伐ノ軍令ヲ出シ玉フ

十三日石田三成大谷吉継

或作
吉隆

廻文ヲ諸將ニラクリ逆心

ヲ企大谷刑部少輔吉継ハ元源君へ別心ヲ不存ニ付テ去

ル五日敦賀ヲ立テ江州佐和山ニ至リ三成同道ノ会津

ニ趣ントス然ルニ三成逆心ノ企ヲ大谷ニ告テ同意ノ一ヲ

ス、ム大谷諷諫ヲ尽ストイヘ凡三成不肯ニツイテツイニ

同心シ今日十三日先諸大名へ廻文ヲマワレコトクク味方

ニ引付ル也中ニモ毛利輝元宇喜多秀家ハ中國ノ大名也

其上大閣秀吉以来五老ノ列タレハ兩人ヲ引付ズシテハ

事不可叶トテ輝元ヲカタライ秀頼卿十五歳マテハ天

下ノ政務悉ク輝元ニカスヘキ由誓狀ヲ與フ輝元ノ

臣渡辺飛弾諫トイヘ凡輝元同心セスヤカテ大坂ニ至ル

大坂西丸ニ源君ノ御留守居佐野肥後守元綱在城ス

人数凡ソ五百余奉行氏使ヲ立ツイニ佐野ヲ追立テ西
丸ヲウケトリ毛利輝元ヲ西丸ニララシム佐野ハ伏見ニ
落行テ籠城ノ兵ニ加ル

十五日前田利長カ方ヘ王成カ廻文到来利長不肯是ニ
ヨツテ利長会津ヘ不下越前ノ逆徒ヲ退治ノ用意ス

十六日大坂ニライテ諸大名ノ人質ヲウケトリ城中ニ可
入ト定ム関東ヘ発向ノ大名ノ妻子マテ可取入ニキハマリ

長岡越中守忠貞カ妻子ヲ城ニ可入ノ旨ヲ告ク妻子不
肯ニ付テ明日コレヲ可取圍ニキワマル

加藤清政カ妻ヲハ
家臣大木ト佐守又
スミイタシテ肥後ヘ行ナリ加藤清政カ子ヲ石田三成ト不快
ユヘニ大木コレヲヒソカニツレノカル、ナリ黒田長政カ母儀并妻大

坂ヨリヌスミ出シ宮崎織部
豊前ヘツレユクナリ

十七日毛利輝元申喜多秀家徳善院玄以法印増田右
衛門尉長盛石田治部少輔三成長束大藏太輔正家各連
判ノ源君ノアヤマリヲ十二箇条書付是ヲ伏見城ニツカ
ハシ急キ城ヲ可明渡ノ旨ヲイ、ツカワス伏見ノ守將コ
レヲ不肯ニ付テ乃伏見ノ城ヲ可攻手配ヲナス若狭少將
秀勝ハ城ヲ逃レテ京都ニ奔ル

長岡越中守忠興カ妻女ノ宅ヲ圍ム妻女八歳ノ女子五
歳ノ男子ヲ殺シ自殺家ニ火ヲ付テ焼立家人小笠原
正齋川北石見自殺稍留伊賀

後號
一夢

逃亡ス

忠貞室者明
智光秀女也

函齋妹若狹國武田氏室于時號宮川逃建仁寺函長老
母也于一郎室八前田利長女也是八宇喜多秀家宅二逃
因此人質ヲ取入一ヲ止

今日十七日諸大名衆國持へ八輝元秀家小身衆へ八前田玄以
増田長盛長束正家書簡ヲ通シ家康公ノ非ヲ訶へ催促ヲ
一夕ス前田利長及堀尾帶刀以下へコトク入書ヲ遣ス

十八日三成諸方ノ寄手ヲ定メ軍勢ノ手配ヲナス伊

勢口へ八毛利輝元宇喜多秀家筑前中納言秀秋土佐侍

從長曾我部盛親大津宰相京極高次立花左近將監宗茂久留

米侍從藤四郎秀包筑紫主冰義冬鍋嶋信濃守定茂或云勝茂脇

坂中務大輔安治堀内安房守羽柴下總守勝雅山崎右

京定勝蔭田權助中居式部少輔有澄長束大藏太輔正

家都合七万九千八百六十人美濃口八岐阜中納言秀信

稻葉右京貞通父子小西攝津守行長稻葉甲斐守石田

三成都合二萬五千七百人北國口八大谷刑部少輔吉隆

若狹少將秀俊木下宮内少輔丹波衆七頭但馬衆二頭

木下山城守頼繼大谷吉隆弟戸田武藏守重政越前安居一

州字和嶋福原右馬助直高溝口彦三郎上田主冰寺西下野

奥山雅樂助小川土佐守祐忠生駒雅樂助正成其身病氣工へ

家臣蜂須賀阿波守至鎮上青木紀伊守青山修理都合

出陳三萬餘人勢田橋爪在番太田飛彈守政信同美作守垣

見和泉守家純豊前熊谷内藏允直陣豊後秋月長門守安岐

種宗日州相良左兵衛頼定肥後高橋右近長行日州伊宮崎

藤豊後守竹中伊豆守中川修理大夫豊後木村弥一右旧杵

衛門合六千九百余人信濃口ハ真田安房守父子上田

ヨリウツテ出テ中山道ヲサシフサクベシ大坂留守居者小

姓衆七手五百人馬廻衆八千餘人弓鉄炮足輕五千九

百人前備後備六千七百人輝元德善院法印玄以増田

長盛留守居タリ合四万二千餘都合王成同意ノ人数

十八万四千余人此内関東へ内通ノ輩尤多シ逆徒各面々ノ持口ヘウツ

立テ路次ヲフサギ関東ニ敵ス兼名氏家内膳正行廣神戸羽柴下總守勝雅龜山

岡本下野守在城ス

十九日中納言秀忠卿会津征伐ノ夕メ今日自武城御出

馬柳原式部太輔先陣タリ秀康忠吉并ニ御家人悉御

供凡ソ軍勢六萬餘蒲生秀行会津ノ案内者タリコトニ

秀行家人大半上杉景勝処ニ有之秀行宇津宮ニ在城

旁以先陳ヲ乞トイヘ氏御嘉例ニマカセラレ柳原勤之工ヘ

秀行ハ檜原峠ノ先陳ヲユルサル柳原式部太輔康政松

平飛彈守忠昌奥平信昌子舍弟下総守清匡并伊兵部直政

上州高崎本多中務太輔忠勝上総大多喜酒井宮内少輔

家次上州旧井同右兵衛大夫忠世武州川越蒲生飛彈

三万石

五千石

守秀行 十八万石 宇津宮 森右近大夫忠政 信州松城 十二万石 石川玄蕃

頭康長 同州松本 七万石 仙石越前守忠俊 同州小室 五万石 皆川山城守

信正 野州皆川 一万石 成田左馬助氏憲 同州鳥山 一万石 真田安房守昌

幸 信州上田 同伊豆守信之 上州沼田 三万石 同左衛門佐幸村水谷

左京大夫山川民部少輔朝信日根野德太郎 後任筑後守 等

供奉

北日石田三成兵ヲ癸ノ丹後國田邊城ヲ攻ム城ニハ長

岡兵部太輔藤孝入道凶齋玄旨楯籠ル初メ丹後ハ細

川カ領國也藤孝隱居ノ後宮津ニ在城ス嫡子越中守

忠興ハ田邊ニ在城ス細川玄蕃ハ峯ノ山ニ在城ス忠興

去年豊後杵築ヲ賜テ杵築ノ領分ヘ老臣ヲツカワスコト

ニ今度關東ヘ癸向ニ付テ兵士コトク忠興ニ付テ下ル

コノユヘニ田邊以ノ外無勢ナレハ宮津ノ城峯ノ山并ニ

松井佐渡カ守城ヲモアケテ田邊ノ城一ヶ所ニツホム也

寄手小野木縫殿助谷出羽守藤掛三河守高田豊後守

別取豊後守小出太和守吉政 播磨守秀政子 後改播磨守 杉原伯耆

守長房生駒左近大夫一正也小野木縫殿助常ニ長岡

ト不和ニ付昼夜ノイトマク攻トイヘ尺城兵堅守

伊賀國筒井伊賀守定次カ居城上野ノ城ヲ伊勢口ノ

寄手大軍ヲ以テヲレヨセ先使ヲ立テ城ヲ請取シト云

城兵則城ヲ明クコノユヘニ新庄越前守在番トシテ上野
ニ居ス

廿一日源君江戸ヨリ御出馬江戸御留守居武田信吉万

代依母氏號武御本丸松平因幡守康元隱岐守定勝兄

由千時十七歳青山常陸介忠成後改播广守相内藤修理亮清政元甲

西丸ニ石川日向守家成板倉四郎右衛門尉勝重後任

守千時物頭加藤喜左衛門尉上州宮崎ノ城主奥平義

作守信昌モ暫ク御留守ヲフトム

逆徒今日伏見ノ城ヲ攻ム寄手ハ筑前中納言秀秋寄口

良宇喜多秀家乾嶋津兵庫頭義弘錫嶋信濃守定茂西

左衛門大夫
康通後改日
向守領上總
嶋戸二万石
家成隱居兒
五千石伊豆
櫻繩家成為
御留守

増田作右衛門尉増田長盛家人長長東大藏太輔正家

秀頼卿馬廻野村肥後守入道父子并ニ物頭ニ鈴木孫三

郎重朝後改雜川口久助等并ニ三成力家人高野越中

守モ相加ル

廿三日佐竹右京大夫義宣カ方へ源君ヨリ嶋田次兵衛ヲ

ツカワサレテ軍勢ヲ催促シ玉フ義宣不應貴命

廿四日源君今日野州小山へ御著座ノ処鳥井彦右衛門

尉元忠力飛脚到來ノ逆徒蜂起ノ告アリ因是逆徒可

取圍城々伊勢義濃尾張ノ諸將ハ先立テ可歸城旨命

セラル

尾州清洲ノ城ニ伊駒隼人

尾州コホリノ住人伊駒八郎右衛門尉子也初隼人為蜂須賀蓬菴養子

號蜂須賀隼人後還八郎右衛門尉家後改因幡守剝髮號露月

ソノ比浪人ナリシヲ福嶋

正則タノミテ留守ヲサシム隼人カ父八郎右衛門尉ハ

ソノ比入道ノ遊客ノ身タリ岐阜黃門秀信コノ入道ヲ呼

出シテ正則カ留守ニ清洲城ヲ可乗取ヲ相談ス入道

元來織田ノ家人ナレハカイクシクタノマレ在々ノ人数ヲア

ツメ足輕ヲ用意メサテ子隼人カ元へ案内シ手引イタスヘ

キ旨ヲ告ク隼人不肯一旦正則ニタノマレ城ヲアツカリテ

父ノ命ナリトテニ心ヲ存セシ非本意入道殿ハ元ヨリ織

田ノ普代ノ人ナレハ秀信ノ手ヲ引玉ハシ可然古ヨリ父子

ノ軍ナキニ非レハ不苦ト云入道大ニ驚テ老テハ子ニ從フ

世ノナライナレハ隼人カ云処ニ可從トテ秀信ニ不與コレユヘ

ニ清洲ノ城責モヤミヌ

於五日水野忠重カ事ニ付テ水野カ家臣上田清兵衛鈴

木次兵衛同久兵衛カ方へ源君ヨリ御直書ヲ賜ホ左衛

門勝成

後任日向守

ヲ忠重カ遺跡相續ノタメニ被遣一ヲ命セ

ラル六左衛門尉ソノ比ハ毛利輝元カ家臣備中國成羽

城主三村紀伊守カ元ニ浪人分ニテ有之也初メ水野カ

横死ノ事何ノ子細モ不知小山ニ告未早速宇津宮ニ達

ス時ニ諸將群議ノ是堀尾カ野心カ然ラハ子息信濃守

信長家人

吉氏ハ宇都宮ニ在渠ラセメテ實否ヲ糺サルヘシヤト云
ケレハ秀忠御カ子テ吉氏ニ懇遇アリケルユヘニ此堀尾カ
所為ニアルヘカラス若左アルニライテモ信濃守ハ天性律
義ナル者ナリト宣テ不糺之追付又荊屋ヨリ使者来テ
加々井カ懐ノ證文等ヲ持參ス加々井弥八郎カ死骸ヲ改
メケレハ懐ニ一通ノ書狀
アリ徳川殿与カノ大名一人殺サハ十萬石
ヲ与フヘシト書タル三成カ證文アリ

今日諸大名源君ノ御旅館ニアツマリ上方逆徒蜂起ノ
ヲ議ス上座ハ織田有樂長益末座ハ市橋下總守正綱也
源君手卷物ヲ持セラレ出座マシクテ大坂奉行衆ヨリ
家康アヤマリノ條々ヲ書立テ伏見マテコシ申サルナリ

一々家康ナカイニアラサレ氏如此次第悉皆家康ニ諸事
ヲイロワセマシキトノナリナルヘシ各一覽アレトアツテ入御
其後山岡道阿弥岡江雪ヲ以テ諸大名へ仰出サルハ
各上方ニ人質有之上ハ早々上方へ上ラレ逆徒ニ可被與クミヒ
有無ノ一戦ハ家康一身ニテ可仕軍ノ勝負氏ニ各へ遺恨ヲ
可存ニアラストノナリ也トキニ福嶋左衛門大夫正則ス、
三出テ自余ノ異見ヲ問ニ不及某ニライテハ源君へ無
ニニ與シ奉ルヘシ上方ノ人質吏ニ不及顧也乃居城清洲
ヲサシアケ上方御退治ノ御座城タラシムヘシト云次ニ淺
野左京大夫幸長亦同之コノユヘニ大小名悉一同ニ不存異

儀ノ旨ヲ云兩使カヘツテ此旨ヲ上達スシテラクアツテ又
兩使ヲ被出上方ノ逆徒ヲ可被罰一カ直ニ上杉景勝ヲ
退治セラルヘキカ各ノ異見ヲ聞召ヘキトアリ各上方ノ逆
徒不日ニ御退治可然ト申上ル其後井伊直政本多忠勝
出座会釈アツテ乃富田信濃守知信勢州 分部左京亮政
壽勢州 古田兵部少輔信勝或云重勝 筒井伊賀守定次
上野 伊賀 稻葉藏人通茂勢州 福嶋掃部頭正頼勢州 德永下
上野 總入道昌時濃州 同左馬助昌重市橋下總守正綱尾州
山岡道阿弥俗名八郎 此輩ノ城々逆徒先ヲソフノ由ノ
キコヘアツテ急已レカ領分ニ歸ルヘキ旨ヲ命セラレ

伊達政宗今日白石ノ城ヲ攻取政宗六月十四日大坂ヲ
立テ佐竹岩城相馬ヘカリ七月廿二日下著中一日人馬
ノ足ヲヤスメ廿四日荻田郡白石城ヘ押寄コノ城ニ上杉
景勝カ老臣其糟備後守近江守 在城也備後守ハ会津
ニ居テ其兄壹坂式部有之城中無勢也政宗カ兵力戰
メ廿四日ニ二三ノ郭マテ乘破今日其糟カ兵力屈シ政宗
カ兵石川太和守ヲ夕ノ三城ヲワタシテ会津ニ退寄手
アトヲツケルヲ雷沢吉内シシカリシテ引トリ又政宗濱田
治部ヲ白石城ニ入置ク
廿六日会津ヘ寄手ノ面々へ源君御書ヲ賜テ上方逆

徒誅伐ノ夕メ御発向ノ旨ヲ告ラレ

筑前中納言秀秋カ使者平岡石見守今日黒田甲斐守

長政カ陳ニ至テ味方ニ可参ノ由ヲ告

今日前田肥前守利長同能登守利政大聖寺ヲ攻ニカク

メニ金澤ヨリ出勢ス

廿七日上方逆徒ヲ退治ノ面々今日ヨリ小山宇津宮ヲ

立テ順路ヲ經テ歸城セシメ各清洲ニテ待アワスヘシト

仰出サレ一番勢福嶋左衛門大夫正則尾州清洲加藤左馬

助嘉明与州真崎羽柴越中守忠真丹後并豊後木付黒田斐守長政

豊前中津田中兵部太輔吉政三州同崎同民部少輔長頭藤堂佐

渡守高虎与州京極修理亮高政信州飯田同丹後守高智二番

勢池田三左衛門尉輝政三州吉田浅野左京大夫幸長甲州有

馬玄番頭豊氏遠州横須賀松下右兵衛佐吉綱山内對馬守

一豊遠州懸川堀尾信濃守吉氏遠州濱松池田備中守長吉三州鳥取

一柳監物直盛濃州黒田三番勢蜂須賀長門守至鎮阿州生駒

讚岐守正俊讚州寺沢志摩守重政或云廣高肥前唐津金森法印長

近彈州高山同出雲守重頼此外小身ノ輩ハ其遠近ニ隨テ

発向ス源君ヨリ井伊兵部少輔直政本多中書忠勝御

目代トシテ清洲へ発向ス一本八月朔日ヨリ分國へ発向ト云ハ非也

真田安房守昌幸同左衛門佐幸村ハ会津征伐ノ催促

ニ從テ佐野ニテ来ルトイヘ氏王成力廻丈ニ應メ大卧ヨ
リ取テカヘス此時沼田ニ立寄真田伊豆守信之ニ對面
シ直ニ上田ニカヘル伊豆守信之ハ源君ニ属ス是ニ由テ去
ル廿四日源君御書ヲ信之ニ賜テ此度父子引ワカレ逆
徒ニ不與一ヲ感悅シ玉フ今日又御書ヲ伊豆守ニ賜テ
父安房守カ領分小縣ヲ伊豆守ニ賜ルノ由命セララル諸將
ノ人質直ニ江戸ニ留置
或ハ吉田ノ城ニ入ラク也
今日源君土方勤兵衛尉雄久ヲ配所佐竹ヨリ召出サレ
加州前田カ方へ被遣テ上方逆徒退治ノ義ヲ前田兄弟
ニ命セララル大野修理亮治長モ配所ヨリ召出サル

廿九日九廿七日ヨリ今日マテニ上方奔向大小名皆進
奔奥平藤兵衛美作守
信昌弟ヲ路次マテ使トメ被遣上方奔向
ノ諸將ヲ子キライ玉フ

晦日 去ル廿一日ヨリ伏見城ヲ攻ルトイヘ氏城兵堅守
矢玉ヲ飛メ寄手討死多クカ攻ニナリカタキ所江州永原
ノ代官深生清十郎寄カ北騎足輕百メシツレテ伏見松
丸ニコモル其外江州甲賀衆并ニ伊賀衆皆楯籠リ松丸
名籠屋丸ニ有之然ルニ増田右衛門尉長盛長東大藏太
輔正家等カハカライトメ永原并甲賀ノモノ氏ノ妻子ヲ
召ヨセ城ヨリ見ル処ニハタモノニカケツノ後寄手ノ内淨

一伏見落城時

東庄助ト云モノニ矢支ヲ城内へ射コマセ城へ別心イタシ
寄手ニ加ハ妻子ヲユルレソノ上ニ恩賞ヲ與ユヘシ不然ハ

如此不殘妻ヲラハタモノニ可掛旨増田殿長束殿ヨリ仰

本城 鳥井内藤父子 佐野肥後守 若ウラキリセハ城中ニ火ノ手ヲ可上ソレヲアイツ

西九 松平主殿頭 同立左衛門 攻入ト云ラクルノ處廿九日ノ夜半ニ松丸ニ火ヲカク

治部少九 駒井猪之助 貞中 立退 ラ寄手一同ニセメ入秀秋ノ兵充功アリ松丸ハ

名古屋九 篠山理兵衛 甲賀佐左衛門 岩田兵庫 切スル 上三右衛門尉名護屋丸ハ秀秋老臣松野

松丸 松下孫十郎 手負而死 錫嶋カ手ニテハ家人成澄十右衛門尉一

太鼓丸 深生清十郎 降参 カリニテ鳥井堅ク守之

見武功雜記十四并雜錄五 伏見落城軍將ハ不及云大岡孫太郎安藤次右衛

門長谷川吉左衛門松井茂兵衛原田二郎八山口兵八

柴田弥十郎中嶋三郎兵衛巨海兵藏糟谷重三郎河村

弥之介鈴木清十郎藤口忠八郎神谷甚四郎河内喜平

渡部加兵衛福尾三藏早部千千代 安藤治右 衛門小姓 右此者凡

無比類働ライタシ城兵悉ク打死鳥井彦右衛門尉元忠

力首ハ鈴木孫三郎 平次イ 討取松平主殿頭家忠首ハ嶋津家

人別所圖書ト云モノ討取松平五左衛門尉近正力頭

ハ秀秋カ家人日復角助田嶋勘左衛門尉相討也内藤

弥二右衛門父子カ頭ハシレサル也則首氏ヲ大坂へ送ル

松平主殿頭カ頭ハ御一族ナリトテクキヤウニノセタリ

孫三郎者雜
賀孫市也

或云嶋田

孫三郎者雜
賀孫市也

東庄助ト云モノニ矢文ヲ城内ヘ射コマセ城ヘ別心イタシ
寄手ニ加ハ妻子ヲユルレソノ上ニ恩賞ヲ與ユヘシ不然ハ
如此不殘妻子ヲハタモノニ可掛旨増田殿長東殿ヨリ仰
フレラル若ウラキリセハ城中ニ火ノ手ヲ可上ソレヲアイツ
ニ可攻入ト云ヲクルノ處廿九日ノ夜半ニ松丸ニ火ヲカク
其煙ヲミテ寄手一同ニセメ入秀秋ノ兵充功アリ松丸ハ
秀秋ノ手村上三右衛門尉名護屋丸ハ秀秋老臣松野
主馬一番乗也鍋嶋カ手ニテハ家人成澄十右衛門尉一
番乗也本城ハカリニテリテ鳥井堅ク守之

八月朔日伏見落城軍將ハ不及云大岡孫太郎安藤次右衛

孫三郎者雜
賀孫市也

門長谷川吉左衛門松井茂兵衛原田二郎八山口兵八
柴田弥十郎中嶋三郎兵衛巨海兵藏糟谷重三郎河村
弥之介鈴木清十郎藤口忠八郎神谷甚四郎河内喜平
渡部加兵衛福尾三藏早部千千代安藤治右右此者氏
無比類働ライタシ城兵悉ク打死鳥井彦右衛門尉元忠
カ首ハ鈴木孫三郎平次イ討取松平主殿頭家忠首ハ嶋津家
人別所圖書ト云モノ討取松平五左衛門尉近正カ頭
ハ秀秋カ家人日復角助田嶋勘左衛門尉相討也内藤
弥二右衛門父子カ頭ハシレサル也則首氏ヲ大坂ヘ送ル
松平主殿頭カ頭ハ御一族ナリトテクキヤウニノセタリ

竹菴在太鼓
九鈴木喜八
得字首

ト也大坂京橋ニ獄門ニカクル鳥井カ頭ハ京ノ町人佐野

恩院ニテ煙トス茶師上林竹庵三峯同牛加石部ノ小市即折

節伏見見舞ニ至リ直ニ籠城シテ打死牛加ハノカレ去ル

雑兵ハ命ヲタスクヘキ間降人ニ可出トアリイワレモ出

カ子ケルヲ山岡南庵道向ニツレテ出ヘシト惣兵一決シテ

云甫菴降人ノ頭ニテリテ可出トハ本意ニアラスレカレ

大勢ノ命ヲタスクルトテハ不及是非也但甫菴一人ニ

テハイカ、テレハタレテリテ今一人可被加ト云シカラハ深

生清十郎ニ可出深生トハ平生武勇アラハシ人ノ存シ

タルモノナレハ降人ニ出タリテ臆セルト云沙汰ハアルニシキ

トノトニテ兩人雑兵ヲ引ツレテ城ヲ出則筑前中納言秀

秋ノ陳ニライテ降人ヲウケトルトキ秀秋カ物頭本木式

部此内約束ヲ不知メ深生ライマシメ秀秋カ前ニ引スユ

ル深生右ノワケヲ云ニ付テ早々繩ヲトクトイヘテ深生一

度縲紲ノ耻ニアフヲ云テ自殺ス

十月廿四日伏見

ノ城ニライテウラキリノ輩センサクアツテ忠義ノモノ

并ニ籠城戦死ノ伊賀甲賀ノモノ

ハ恩賜アリ甲賀

ノモノ堀十内山口惣介以下水口ニライテ十三人ハタモ

ノニカル也

伏見城責ノ間秀秋ノ先手松野主馬

仕寄場ノ竹把ヲ城内ヨリ火箭ニテ焼立ルユヘ竹把前
ニカベ下地ライタシカベヲヌル此時出テカベシタギライタス

一ノナラヌモノハ土ヲコ子ヨト云ツケルニヤウヤク壁下
地イタシニ出ル兵ハ七八人也歴々ノ侍皆土ヲコ子タリ中間
凡出テ壁ヲヌル是ヨリヤケタテラレサル也 此時秀秋ハ
夕本ヨリ大嶋源次ト云モノ使ニ来リ仕寄先ヨリ堀ハ
夕マテノ間負^クラ問フ村上三右衛門 其比ハ宇右 衛門尉ト云 云十二間
ハカリアルヘシト云源次イツレモノ見分ノ上ハ十二間アル
ヘケレ凡若ウキテミタルカト尋ノアルトキイカニ候ト
云村上ハ夕本ヨリノ使ニ間ヲウタセテアイマキアレハイ
カ也サラハ打テ可遣トテ一間竿ヲ以テ間ヲウツニ右
源次間杖ノ先へ出テクイラ一間二間トサシケルニ十一間

半アリシトテリ源次毎比類勇士テリトソ

二日 丹後田邊ノ城去月廿日ヨリ日夜コレラセム城
堅ク守ル禁裏ヨリ八条殿ウケ玉ハリニテ函齋玄旨方
へ勅命アリ則德善院玄以法印案内者ヲソヘテ城中
へ云入ル函齋古今相傳ノ箱證明狀ノ哥ノ短冊并源
氏抄廿一代集箱ヲ禁裏へ献上ス而メ城アツカイニテ
リ今日玄旨高野山へ退城ニハ前田主膳 笹山 城主 勤番 或云 九月

和陸 十二日

三日前田肥前守利長同能登守利政兄弟兵ヲ率メ大
聖寺ノ城ヲ攻此城ニハ山口玄番頭正弘子右京亮修弘

在城不利長兄弟去月廿六日金沢ヲ立テ松任ニ二三日
逗留シ青筋漆筋兩所ニテ川越アリ三堂山ニ要害ヲ
カヘ岡嶋備中守ヲ置千代ニ寺西若狹守ヲ置小幡村
三谷村ニカ、リ鴨野ニ一宿小松^{丹羽}ノ城ヲ押ヘ八月一
日小松表ヲ押トラル此時小松ヨリ木波ノ浮ヘ櫻木
源大夫ト云モノ船ニテ出テ金沢勢ノ小荷駄ヘ足輕ヲ
カク金沢方神尾圖書上坂又兵衛尉太橋九郎兵衛尉
足輕ヲツレ跡ニノコリ船中ノ者ヲ打立テ而ノ小荷駄
ヲ鴨野ヘ引付ル大聖寺ノ城ヘ九岡^越城主青木伊賀
守来リ九岡ヲアケ大聖寺ノ城ニ一所ニコモラシラ

云山口不肯ソノ内ニ金澤勢既ニ押寄ケレハ山口右京
亮青木伊賀守ヲ同道イタシ物見ニ出右京方ヨリ足輕
ヲカケシム青木カ兵モマシワリ出前田利長カ兵ハ加茂
野ニ陳ヲル利政カ兵ハ松原ニ陳ス城ノ大手鯨橋ハ
利政カ軍勢攻之山口右京亮防之コ、ニテ利政カ兵ハ
田出羽守丹羽織部大道寺玄蕃允鑑ヲ合カ子カ丸ヘハ
利長カ軍勢押寄先手ノリ入横山山城守組力戦ス利
長カ兵淺井左馬葛卷隼人其外生田四郎兵衛藤掛豊前
兩人弓^{大將}西村右馬允^{鉄炮}氏家内藏允宮崎藏人今井允
木夫大音主馬各戦功アリ富田藏人山田勘六戦死而

ノ城ツイニ落四日山口玄番頭父子自殺ス利長乃越
前金津ノ上野ニテ癸向五本村長崎邊ニテ手遣シカ
ルニ越前北ノ庄城主青木紀伊守早馬ヲ以テ急ヲ敦
賀ニ告ケ大聖寺城責ノ由ヲ大谷刑部少輔吉隆ニ告
ク吉隆乃北陸道ノ諸勢大津宰相京極高次朽木河内
守脇坂父子小川土佐守同左馬助寺西下野守戸田武
藏守同内記平塚因幡守木下山城守赤座久兵衛尉木
下宮内少輔奥山雅樂助上田主水正等ヲ催促シ今日
居城敦賀ヲ立テ大聖寺ニ向

四日 今日源君小山ヨリ御師ヲカヘサレ古河城ニ寄宿

九ノ小山ニ御逗留十日也上方勢不殘引拂テ後小山

ヲ立セ玉フ上杉景勝カ押勢結城三河守秀康大將ト

シテ宇津宮ニ陳取玉フ蒲生藤三郎秀行里見安房守

忠義佐野修理大夫政綱

亮忠政松平又七郎家信

ハ野州奈須黒羽ニ在陳ス左モ信夫口米沢口ノ奥羽ノ

勢ハ不殘ソノマ、景勝ヲ押ヘシム三河守秀康ヘ命セラ

ルハ上杉景勝利根川ヲ越タリト聞ハ戦ヲテスヘシト仰

付ラルト云云秀康シキリニ上方ヘ供奉ヲ願玉フトイヘ

凡大敵景勝ヲ押ヘシムルヲ秀康ニアラスシテハ不可叶

下野佐
野城主

後寺尾州師崎

後任紀
伊守

ニ付堅ク命セラレテ宇津宮ニノコリ玉フ水戸會津真田之押見下

今日石田三成大坂ヨリ伏見ニ至リ今度伏見城責甲

乙ヲアラタメ永原九万石源君ノ御領分ヲ戰功ノ輩

ニ分千與ユ充金銀特ノ褒美アリ而メ大津ニ至リ京

極高次ニ對面ス此時高次家人安養寺三郎左衛門尉

入道聞齋等コ、ニテ三成ヲ可討取テ議ストイヘトモ

黒田伊豫守赤尾伊豆守等不同心ノ事ヲラス高次ハ明

日北國へ下向ニ付三成モヤカテ佐和山ニ至ル 或云

三成伏見ニ至リ床机ニ腰ヲカケ軍勢ノ甲乙ヲ亂ス

金吾秀秋コレヲ見テ大ニ怒リ是ヨリ貳心ヲサシハサメ

リトソ

六日 今日源君古河城ヨリ船ニメサレ江戸城へ歸セ玉

フ今日真田安房守昌幸カ元へ石田三成返簡ヲ送り信

州甲州ノ進退ヲカレニマカス

七日堀丹後守直寄ニ源君御感書ヲ賜フ初越後ハ上

杉景勝カ領分タリ是ニ因テ景勝会津ヨリ齋藤柿崎

九田等ヲ越後ニツカワシ方々ニテ一揆ヲ起サシム越後

七郡ノ内六郡マテ一揆ヲコレリ其比越後ハ堀久太郎

秀治カ領分タリ黒瀧城ニ堀監物塩澤城ニ堀丹後守

松崎城ニ柴田源左衛門尉三条城ニ堀雅樂助監物長男

一揆未静而
直寄注進一

岡城ニ堀義作守下倉城ニ小倉主膳ナカノ尾城ニ神子田
八右衛門尉以上七人村上城ニ村上周防守柴田ニ溝
口伯耆守并秀治カ與カタリシカルニ八月朔日二日一
揆氏方々ニ起リ城々ヘラシヨス上田郡下倉ノ城難義
ニ及ヒ丹後守方ヘ加勢ヲ乞則丹後守打立後誥スル
ノ處小倉主膳八月二日城ヨリツイテ出戦死ス丹後
守ソノアトヘヨセテ幸ニ弔合戦ヲイタシ一揆氏ヲ追拂
三百餘人討取一揆氏妻在ノ庄田川入小千屋近辺ニ蜂
起丹後守カ兵コレヲウツ速水織部山中数馬サキカケ
シ二百餘ヲウツトリ則一揆静謐ノ旨江戸ヘ註進仕

揆静謐之旨
或人難之直
寄云一揆不
静謐我豈全
至乎

ニ付今日御感書ヲ丹後守ニ賜コノ後村上溝口三糸
ノ後誥ヲイタシ雅樂助ニカラ付一揆ヲ追拂村上ハ元
景勝カ臣本庄カ居城ユヘニ村上ニモ本庄カ方ヨリ間人
来テ一揆ヲコルテリ其後一揆氏下田村ニトリコモルヲ
堀義作守出テヲイハラフ事九月中マテノ一ツリ堀監
物モ春日山ヨリ柏崎マテ兵ヲ出シ一揆ノ下知ヲナス
堀監物ハ雅樂助
丹後守父也
今日福嶋左衛門大夫正則清洲ニ至ル凡ソ小山宇津
宮ヨリハセ上ル大小名皆人質ヲ池田輝政カ家臣荒尾
志摩守処ニワタシ吉田城ニ入シム此時田中兵部少輔岡

崎ニアリ田中筑後守ハ西尾ニ在城ス然ルニ田中人質
ヲモ不出コトニ兵部ハ池田輝政ノ後陣ニ押ヘシト小山
ニテ相究ノ処兵部本坂越ヘカ、リ先ヘ押行ニ付池田
輝政家臣竹村伊豆ニ足輕二十人ソヘコレヲト、メニツカワス
竹村足輕ヲツレ先ヘ行宿ニ備ヘ兵部ヲト、メ輝政ヨリ
跡ニオサセシト云、

九日大谷刑部少輔吉継ハ青木紀伊守カ乞ニヨツテ越
前ヘ出前田利長ト戦ハン一ヲ議ス折節利長カ取縁中
川宗羊八郎右衛門尉京都ヨリ加洲ニトラルトテ敦賀ニ至ル
吉継以前ヨリ茶湯ノ友タリケレハ大谷宗羊ヲ茶湯ニ

事ヨセテ招寄教奇屋ニライテ狀ヲコノミケルハ利長
出勢ノアトヘ大谷吉継五千ニテハマ手ヨリ押寄丹羽長
重三千ニテ金澤ヲ乗捕ハツニ究レリ必ス越前ヘ不可
出ト云計策ノ狀ヲカ、シメテ利長カ方ヘツカワス而メ
去ル三日敦賀ヲ立鯖並宿ニ著大手搦手ノ寄手ヲ定
メ大聖寺ノ後攻ヲセントスルノ處大聖寺ステニ落城シ
前田利長金津ノ上野大聖寺ヨリ四里半越前ノ方ニ陳ヲトリテ民屋
ヲ放火シ地庄ヲ可攻ト軍議ヲナス由告来ル然ハ府
中堀尾帶刀吉晴甥堀尾宮内孫堀尾勘解由在城ノ城ヲアトニライテ地庄ヘ出
勢前後ニ敵ヲウケテ不可然ト各コレヲ議ストイヘトモ

大谷思慮ノ小松丸岡ヘカラフツケスシテハ越前持カタメ
カタカルヘシ北庄ヲ堅守丸岡小松堅固ナランニハ府中
ノ城手ニ立ヘカラストテソノ夜ノ丑刻ニ大谷兵ヲ率メ
北ノ庄ニ付前田利長四日ニ北庄城ヲ攻ヘキラ上方勢
昨三日ノ夜北庄ヘ大勢下著トキイテ利長大聖寺ニ在
陳ス其内ニ中川宗半カ狀到来セシカハ利長大ニ驚キ七
日ノ早朝ニ大聖寺ヲ引ハラフテ金澤ヘ兵ヲ歸八日五
幸塚ノ東ノ山際ヲ押通り寺井ノ北三堂山ニ陳取小松
ノ城ヨリ付ルコトアルヘシトテ五幸塚ニ山崎長門守入道
閑齋太田但馬守高山南坊横山山城守長惣菴同十郎

左衛門尉等三千ノ兵ヲノコス五幸塚ノ押勢モ利長引ト
ル道ヲ引取ハ別糸岳之所八日朝或云九日子細アルニシキ
トテ小松表ヲ押トラル一番山崎二番高山三番横山也
イツレモ夜ノアケサル中ニ引トル太田長カ兵ヲソク引
取処ヘ丹羽長重カ侍大將江口三郎右衛門酒井與右衛
門大屋與兵衛尉出向フ江口ハ五幸塚ノ方ヘ打テ出大
ラウノ野五幸塚ノ橋ノ下ニテ長カ兵ニ寄合フ小松ノ兵松村
孫三郎元福富平左衛門尉家人干時乗切ヲイタス長カ
属丹羽長重其後仕前田利長兵コレヲ馬上ヨリツキヲトス痛手ユヘ當座ハ絶入スト
イヘ斥場急ニメ首ヲトラス小松方團七兵衛佐々多右

衛門沢野二郎左衛門森野次左衛門古田五兵衛尉坂
井五左衛門尉各長カ兵ヲウツル酒井與右衛門尉大
屋與兵衛尉ハ北淺井ノ本江^{本江}邊へ直ニ押出ス淺井暇
小橋^{号城橋}ノキワニテ太田但馬守カ兵ニクイ付テ戰フ小松
方拜江次大夫不破木工兵衛安彦左馬允成田助九郎
宮田小兵衛五人是ニ向テカ戰利長カ兵松平久兵衛
後改伯 水越縫殿助太田カ兵岩田傳右衛門^{後改内太}
耆守 野甚之丞井上勘左衛門尉上坂主馬六人コレト相戰此
時太田但馬小高處へ備ラアケテ横ヲウツ江口本江ノ
南蓮臺寺村、高處へアカリ金沢勢へ猶付ヘシトイヘルヲ

丹羽長重兩度軍使ヲハセテコレヲト、ム長重モ中淺井
マテ江口ト尺ニ引トルテリ利長此事ヲキ、三堂山ヨリ
本江マテ人数ヲ寄ケレ尺小松勢既ニ引取ノユヘニ金沢
勢モ引取也 七日ノ夜小松ヨリ五幸塚へ夜討
ヲ可仕掛評議ノ処大雨ユへ延引 長カ兵
小林平左衛門尉足輕大將也團七兵衛尉討之 團元牢
人ニテ
小林カ所ニ有之此乱出未先丹羽カ所ヘナリ尺可出ト
テ出テ其比若敵味方トナラハワカ首ヲ其方トレトサレコ
トライヘリ此時ハ不知ノ討之也小林カ僕其時直ニ小
林カ尸ヲ塚ニ其所ニ付込今ニ平左衛門塚ト号
小松ノ時長カ備ヘハナレ馬來レリ家中ノモノコレヲ
トラントイヘリケレハ長惣菴下知メトラセサリシナリ
江口三郎右衛門尉ワサト馬ヲハナシ是ヲ取ントミタ

ル、ヲ可討トノ心得也 此時山崎閑齋目利過テ但

馬カ崩ル、ヲ入カヘント待テ居ル内ニ高山ワキノ繩手

ヨリ仕カケ横ヲ入ントスルユヘ小松衆皆引入コレユヘ利

長後ニ南坊ニ五千石加増ヲ与フ 山崎閑齋ハ山崎長門守カニ男也少兵

衛ト云父長門守ヲ祿山ニテ戦死ノ時少兵衛功アリ

越前富田弥六逆乱ノ時モ大功アリ信長生害ノ時ハ

明智所ニテ五八月十二日利長浅井ニテ戦功ノモノニ

与感書黄金三枚熨斗付ノ脇指ヲ與 松平久兵衛甲

前立銀ノ下マス具足ノウレロニ南無阿弥陀佛ヲカク久

兵衛下ニテ家人井口大學首ヲトル 松平久兵衛相手

ハ不破木工兵衛岩田傳左衛門相手ハ并江次太夫不

破并江戦死水越縫殿助相手ハ安彦左馬允井上勘左

衛門相手ハ成田助九郎大野甚之丞相手ハ宮田小兵

衛也 孫四郎利政家人山田ハ右衛門ヲ軍使トシテ惣勢

折カヘスヘキノ由フレアリ利政モ繩手ト本道ノ三股マ

テカヘシ陳ヲ備フ城兵十一日石田三成佐和山ヨリ大垣城ニ入此城ハ伊藤彦

兵衛 伊藤長門守盛景子在城ス三成使ヲ立テ此城ヲカラシメテ

云伊藤彦兵衛異儀ニ及トイヘ斥福原右馬助直高平塚

因幡守為廣無是非押入テ城ヲウケトルニ付テ彦兵衛

ハ同國今村ヘ立退 一説ニ長門守父子ト有之三成則伊

藤家人伊藤頼母助同伊豫守ヲカタライ城ノ要害ヲ

尋四方ヲ取ツクロイ城ニハ福原右馬助ヲ指置ク也而
ノ大垣城ヲ諸将会談ノ取トシ壬戌ハ岐阜ヘコヘテ秀
信ニ参会シ義濃尾張ノ手遣ヲ示シ合セ大山ノ城主
ニ牒シ合ス岐阜ノ城ヨリ十八町南因幡権現ノ山ツ、
キニ三筒処ノ取出ヲカマヘ壬戌方ヨリ加勢栢原彦右衛
門同内膳父子并川瀬左馬助其外大勢指遣ス

十二日 今日源君加藤清政ニ書ヲ賜テ肥後筑後兩國
ヲ賜ルノ間成次第可申付ノ旨津田小平次佐々淡路
寺ニ命セラレ遣ワサル

十三日 今日村越茂助吉直ヲ清洲ヘ源君御使トシテ
被遣各ヘ書ヲ賜リ御出馬無御油断ヲ示サル是ハ
各御出馬ヲ待ノ旨申来ニ付テ被遣也

十四日小山宇津宮ヨリ癸向ノ諸勢順路次第ニ段々ニ
上著去ル七日八日ヨリ今日マテニ不殘参著スト云々

十五日有馬修理大夫正純松浦肥前守入道式部卿法
印鎮信五嶋太和守盛季大村新八純忠各小西行長カ
催促ニヨツテ居城ヲ出同國唐津之内拍嶋ニ参著松浦
大村相議ノ云故大閤遺命ニ源君ノ命ニ可從トアリ
シカルニ今度ノ次第專石田三成自立ノハカライトキコエ
然ハ是ヨリ引カヘシ源君可奉從ト云各是ニ同シ則今日

船ヲモトシ自國ニカヘル

十七日市橋下總守正綱福東城ヲ乗捕ル福東ニハ九
茂三郎兵衛在城ノ大垣ノツキ城又ハ兵糧用意ノ夕
メニ堅ク守ラシム尾州赤目ノ城主横井伊織アツカイラ
入テ九茂ニ降參可仕旨云ツカワシケレ氏九茂不肯コ
レニヨツテ市橋正綱徳永法印横井孫左衛門同作左衛
門兵ヲ出メ木曾川筋勝村船渡ノ恥ニ陳ラル九茂カ
子テ三成方ヘ約束シ相圖ノノロシラ上ケレハ三成カ兵
前野兵庫高野越中長松ノ城主武光式部大垣ノ城主
伊藤彦兵衛武藤左京雜賀内膳其外大勢加勢来テ大

藪村大樽村ニ陳ラルハリ川ヲヘタテ、足輕セリ合アリ
川ハ三町余ノ一ナレハツノ日ハ戦クラシ又然ル処ニ市
橋正綱カ家子金森平左衛門御内四郎左衛門兩人夜
中ニ水練ヲツレテ川ヲコシ敵ノ後自蓮坊村捨俣村ヘ
シノヒ入ル百姓皆家ヲアケテ人居テケレハ思様ニ放火
シ関ヲアケシム是ニヨツテ逆徒コトクク敗軍ス此色ヲ
見テ市橋徳永勝村ノ川ヲ乗コシ徳永ハ北ノ手ヘ追カ
ケテ十六騎討取市橋ハ九茂カアトラ付テ追付福東ニ
テノ十ワ手ニテ首三十六討取九茂カ家人西脇幸左衛
門父子澁谷太左衛門三人城下ニテフミトマリ打死ス

九茂城へ入トイへ氏持コタヘカタケレハクケ道ヨリ川

西へウキコへ大垣へ退ク市橋ツイニ福東ノ城ヲ乗捕九茂

手即兵衛ハ兵庫頭カ子元齋藤家ノモノ也後信長ニ仕度々有軍功関原以後手即兵衛子入道ノ加州ニ住ス

十九日 高洲城ニハ高木十郎左衛門三千石在城ス松

木城主德永法印昌時カ方ヨリ家人布家市右衛門一

向坊主加納村ノ寶壽坊ヲヒソカニ高木カ方ニツカワシ

降参ノ一ラス、ム高木頼ヲ同心シケルカ中村郷太田ニ

原隱岐守在番ノ駒野ヲカタメ高木ニ助カシ堅ク示シ

合セタレハ毎下ニ降参センモイ、カイナシ大手馬ノ自口

又云フシヨリ法印押ヨセ玉ナシノ鉄炮ヲ打シムヘシツノ
エノ木

時法印カ兵ヲ引テ福嶋カ加勢ヲ可入替シカラハ城コ

タヘカタキ躰ヲ示メ則搦手モスカセハ城ヲアケテ可引

取ト云合ス是ニヨツテ今日德永父子并市橋下總守横

井一族及ヒ福嶋カ兵本田將監武市内藏助梶田新助後號出雲

堀久兵衛各一組北五騎都合四組百騎ヲサシソヘテツ

カワス法印思案シケルハ高木定テ搦手ヨリ可退其特

福岡ナワテノ難處ヘカ、ラセ一度ニ可打捕ト法印心ハ

カリニ存シキワメ加勢ノ面々又ハ法印カ家人氏ニ不言

合法印下知次第可仕トハカリ言付テ出福嶋カ家人并

ニ德永カ兵ノハヤリヲノ者氏我先ニト搦手成田村ヨリ

ヲレカケ德永カ兵河村忠右衛門真先ニノリ入高木德
永ニ夕ハカラレタリト大ニ怒ル高木カ兵川瀬平左衛門
弓ニテ寄手ヲ射夕テケルカツイニ川瀬戰死德永カ兵
德永左衛門城兵寺倉孫左衛門ト戰高木カ兵大ニ戰
テ德永カ兵川村取左衛門ヲ討取外郭ハツイニ攻ヤフ
ラル、イヘ氏ニノ郭ノ横矢能キ、テ寄手モ内へ入ル
ヲ不得カ、ル處ニ太田ヨリ原隱岐守加勢ノ沙汰アリ
ケレハ福嶋カ方ヨリ早々可引取由イ、ツカワレ寄手引
取寄手へ首三城高木モ始終籠城難叶ヲ以テ福岡ト
中へ首三ヲ得手ニカ、リ駒野ノ舟渡ヨリ引退夕原隱岐守奏者ニテ

手成カ岐阜ヨリカヘルニツヤノ原ト云處ニテ對面ス則三
ノ首ヲ實見ニ入手成黄金十枚褒美トノ高木ニ与エト云

云高木後至出雲
仕堀尾帶刀卒

廿日今日源君遠藤左馬助常利ニ後任但
馬守郡上ヲ賜

ハルノ御書ヲ被下委夕出九月朔
日郡上城責下

廿一日村越茂助清洲ニ著井伊本多カ陳ニ至御出陳ア
ルマレキ由ヲ告ク兩人大ニ驚諸大名各御出馬ヲ待ノ處
如此儀キコヘハ不可然ノ間大小名へ對シテハ追付御出
馬アルヘキ由ノ命ナリト可云トカタク申含而ノ村越江
戸ヨリ御使ニ參タル由キコヘケレハ近邊ノ大小名コト

コトク清洲ニアツマル村越出座セシメ源君ノ御昏ヲ各
ヘワタシ其後既ニ御出馬アルヘキト仰コサレタリト云ヘ
キ取ヲ俄ニ思案シアリノマ、ノ御意ニ從テ申シワタシ
ケルハ御出馬ノ義ハ各分別次第也只今ノ通ニテハ御
出馬アルマシキト仰コサレタリト云井伊本多手ヲニキ
リアセラカク諸將モ兎角ノ返答ニ不及ノ處福嶋左衛門
大夫正則兼テ御出馬延引ノ義只今ノ御口上ニテイツ
レモ誤リシレ候諸將眼前ニ敵ヲサシライテ数日相對
シ敵味方ノ手切ノ一戦ヲモ不仕暗然トノ打過ニ付御出
馬御延引ト相見ヘ候イツレモハイカ、存セラル、明日乃

岐阜ヲ攻テ村越茂助ニ見物イタサセカヘシ申スヘシト云池
田淺野ヲハシメ諸將各此義ニ同ス茂助云ケルハ某義御使
ニマイリタル迄ノ一也城攻見物ニ不及則明日可罷下ト
云福嶋池田淺野イツレモ井伊本多兩氏ヘ達テ茂助ヲト
メ置被申候様ニ申置也而メ茂助モ退出ス

今日福嶋正則カ陳ヘ諸大小名并井伊本多ヲアツメ
岐阜城攻ヲ評議ス岐阜ノ手前ニ尾州大山ノ城アリ此
城ニハ石川備前守貞清在城ス中納言秀信并石田三成
カ下知ヲ以テ加藤左衛門尉濃州黒野城主竹中丹後守同岩手城
主 稻葉右京亮同彦六同郡上關長門守同五岐田丸中

務同川 其外大坂弓鉄炮ノ頭七千餘加勢トメ大山ニ楯

籠ル間先此城ヲ可攻ヤ否ヤト評定アリケリ大山ノ城

ノ加勢加藤竹中関稻葉ハ井伊本多ニ内々申ヨツテ返

忠ノ一アリシカラハ大山ハサセル動不可有之岐阜落城

セハ大山乃陷ヘケレハ大山ニハ押勢ヲライテ先岐阜ノ

城ヲ可攻落ニ一決ス岐阜ノ城ヘヲレヨセンニハ木曾川ヲ

越サレハ不叶ニ付木曾川々越ノ次第相談ニ付福嶋

正則今度ノ合戦ニライテイトモ正則先陳ヲ可兼ノ

間木曾川々越ノ儀正則先陳タルヘシト云井伊本多云

大軍一箇処ヲ渡ラシ一謀トキニ似タリ然レハ正則ハ

幸ハキ原魚騰フコレノ舟渡自分ノ領地案内者タレハ萩原ヲ

コレノ舟渡ヲコサルヘシ北方ノ歩渡ハ一柳監物直盛案内

者トシテ池田三左衛門輝政コサルヘシ元號松コレニ因テ

福嶋モ異論ニ不及北方ノ歩渡ハ岐阜ヘ千カクハキ原ヲ

コレノ舟渡ハ北方ト相岐阜ヘ遠シ川上川下ノ寄手相看

ナクテハ先後シリカタケレハ双方凡ニ狼煙ヲ以テ川ヲ

越一ヲ相圖スヘシ然ラハ先川上北方ノ寄手煙次第ニ

川下ヲモ可越ト相定ム相殘軍勢ハク千トリニイタシ

双方ヘ分ツ川上北方ノ歩渡ハ池田輝政淺野幸長堀尾

吉氏山内一豊有馬豊氏松下吉綱一柳直盛也川下魚

騰ノ渡ハ福嶋正則長岡忠興加藤嘉明黒田長政藤堂
高虎京極高政同高智田中吉政同長頭生駒正俊寺澤
廣高井伊直政本多忠勝也大山ノ押勢トシテ中村一
角一忠式部少輔
一氏死去同彦左衛門一栄カ手勢タルヘシト評
定相究マル

逆徒岐阜大垣ヘモ関東勢明日木曾川ヲコシテ岐阜ヲ
攻ムヘキ沙汰聽ヘケレハ大山ハ東山道東海道兩所ヲ指
フサク要害ノ地也木曾川ヲコサンニハ大山ヨリサシフサ
キ或ハウシロヲタ、ンニハコス、不可叶古ヨリ其例ナ
レハ秀信王成方ヨリ大分ノ加勢ヲツカワシ置ノ処竹中

加藤ステニウラキリノ沙汰アリ稍葉父子モ是ニ同
スルノキコヘアツテ城中互ニ心ヲヲキ合ケレハ手堅動モ
不可叶ノ由石川備前守方ヨリ岐阜大垣ヘ註進ス是
ニ由テ逆徒大ニカララトス而シテ岐阜ヨリ川ハタへ人数
ヲ出シ川越ノ寄手ヲ可防タメ大手川上北方ノ渡ヘ
ハ秀信自身新加納へ兵ヲ出シソノ身モ閻魔堂前マ
テ出馬アルヘシ濃州上コツツキ有知ノ城主佐藤才二郎秀信
ノ兵木造左衛門佐長廣百々越前守飯沼十左衛門尉俗号小勘平
也勘平津田藤右衛門同藤三郎前田半左衛門齋藤齋宮
其外諸士并王成カ加勢栢原彦右衛門父子川瀬左馬

助磯野平三郎ヲ初トシテ軍勢皆新加納ト大野ノ間
へ出向ヘシ搦手魚騰ノ渡ハ砂川足入ニテ人馬ノ働不自
由ノ地ナレハ小勢ナリ凡防ニタヨリアリ其上竹鼻ニ杉
浦五左衛門毛利掃部アレハコノ要害充フセクニ利アル
ヘシトテ花村半右衛門梶川三十郎ニ足輕大將ヲサレシ
ヘ大筒ナトラモタセ遣ス充モ竹鼻ヨリ杉浦毛利加勢
スヘシト下知シ各ヨイヨリ打立テ寄手ヲ防ク手段ヲ
ナス

廿二日川上北方ノ寄手一柳直盛廿一日ノヨイヨリ河
田ノ堤ニ望ム凡ソ今日ノ川越池田輝政名代トメ家人

伊木清兵衛一番ニコシ其次ニ堀尾吉氏此兩人川ヲコシ
川ノ上下ニ備ヲ立而ノ輝政其次一柳直盛ナルヘシトカ
子テ次第アリ然ルニ川向ニ岐阜ノ軍勢出向テ相支ユ
ル躰ナリケルユヘ輝政并山内對馬守一豊河田ノ川原
ナル小家ニアカリ逆徒ノ軍勢ヲミツモルニ二三千ニ不
過ケレハイソキ川ヲ可越ト下知ス午刻ハカリニ一番ニ
一柳直盛川ヲ越ス池田有馬堀尾松下山内淺野以下
ツ、イテ打入ル堀尾カ家人堤五郎兵衛澤田郎左衛門
畑民部一柳カ家人大塚権太夫一番ニ乗上ル堤ハ岐阜
勢前田半左衛門ニ討トラル沢畑モツ、イテ戰死ス木

塚ハ武市善兵衛ト戦フ武市忠左衛門来テ善兵衛ヲ
スクフトイヘ厄大塚ツイニ善兵衛カ首ヲ取ル飯沼勘
平紅絲ノ鎧赤母衣乗
五寸余ノ白芦毛馬ノリカケテ来リ大塚ヲウタント
ス一柳カ兵コレヲ救トイヘ厄大塚ツイニ討死ス勘平ハ
池田備中守ニ討トラル岐阜勢前田半左衛門藤田推左
衛門戦死ス城兵コトクク追立ラレ岐阜ノ町口ヘ引トル
寄手直ニ付入ニスヘキラ城兵川手ノ町ヘ火ヲ放テ引トル
ユヘ寄手可入ヤウナク各川手村ノ東ニ備フル處ニ輝政ヨ
リ軍使来テ今晚ハ皆米野ニカヘリ陳トルヘキ由下知ア
リコノユヘニ諸手皆米野マテ引取テ陳ラル

池田カ兵佐分利弥右衛門ト云モノワカキモノトモ軍法
ヲヤフリ川ヲコストアルトキ私マイリトムヘシトテ乘イタ
ス日置豊前言ヲカケテ何ト云ケレハイソキコセトテコ
サシム是ニヨツテ池田手ニテハ柳田半介今枝宗二日置
豊前先陳タリ

逆徒岐阜方ニモ廿一日ノ宵ヨリ各新加納ヘ討出テ見
合ス木造百々カ下知ニヨツテ川ハタニ虎落ヲユイ兵士
皆川ハタ三町ヲシサツテ備ヘ川ハタヘハ足輕ヲ出メ弓
鉄炮ヲカケシム廿二日ノ朝木造川ハタノ小高处ヘアカリ
向ヲノソメハ寄手ノ内ヨリ川ハタノ小家ノ上ニアカリテ

此方ヲ物見スツノアトニ家々ノ旗凡カスカニニユ木造
下知シケルハ家ノ上ノ侍下ヘラル、テラハ則川コシト
知テ足輕諸侍油断不可仕寄手大軍ナレハ此小勢ニテ
川ハタニテ防戦無心元トイ、ケレハ各必死ノ覚悟ナレハ
少モ不苦ト云木造合戦ハ只今也ツノ口千ガヘ玉フナ人
人ト云テ四方ヲハシリメクリ下知スツノ内ニ寄手川ヲ越
川ハタ新加納ニテ大ニ戦フテ逆徒過半打死ス百々越前
守木造ヲ招テ云ケルハ某カ軍勢廿四人ノ内廿三人マテ
打死今一人モ深手ヲ負我身モ数筒處手疵ヲ蒙レリ
シカレハコ、ニテ打死スヘシツノ間ニ残兵ヲ城ヘ引入城ヲ

堅固ニモタル、分別可然ト云木造見ステカタクカリケレ
凡我人凡ニ今日明日ヲ限ノ身ナレハラクル、モ先夕ツ
モ少ノ間ソトラ急キ引カヘス津田藤右衛門 赤母同
藤三郎 狸々皮 シンカリ也兼松又四郎 黄母 ス、ンテカ戦
ス一柳監物モコレヲ付慕トイヘ凡新加納ノ地行足入多
ク城兵ハ所ノ案内者ナレハ無子細引取百々越前守以
下シツカニシシカリス中納言秀信 二幅白幡二瓜紋大馬
印ノウレシニ瓜紋小馬印
驚ノ三 タシコ 焔魔堂前ニヒカヘコ、ニテ打死セント議スイヘ凡
佐々弥三郎 秀信 川手村ヘカケカヘリ秀信ノ馬ノ口ヲ取
テ城中ヘ引入レ各町口ヲ堅ム木造下知ノ川手村ニ火ヲ

付テ寄手ヲサシフセク上^{カウフキ}有知ノ城主佐藤才二郎一番
ニ敗北ノ新加納ヨリ四里ノ道ヲ瞬息ノ間ニ上^{カウフキ}有知村
ニカケコム川手村ニライテ津田藤右衛門同藤三郎堀場
茂兵衛フミトマリセリ合アリ堀尾カ家人野々口彦助
後改^{丹波}堀場ヲウツ木造ハ八嶋町^{ヤシマ}口ヲカタム晚日ニ及ヒ
ケレハ寄手各引トル 川下魚騰ノ寄手福嶋正則
ヨイヨリ川ハタニヨセテ川上相圖ノ煙ヲマツトイヘヒ三
ヘスレテ鉄炮ノ音キコヘケレハサテハ池田ニ出ヌカレタ
リトテ川ヲコサントス川向ニハ竹力鼻ヨリ杉浦毛利兩
人出合せ大筒ヲガケテラヘ岐阜ノ加勢花村梶川イツレ

モ川西ニライテ土居ヲ築柵ヲ付テ弓鉄炮甚多ク打
立川ハ砂フカフテ足入ユヘ左右ナクコス一モナラス川
下加賀野井村ヘマワリ乗越ス逆徒フセク一不叶ノ皆
竹鼻ヘ引トル本丸ニハ杉浦二ノ郭ニ毛利梶川花村夕
テコモル寄手コトクク圍之正則元ヨリ毛利掃部トシ
タレケレハ和ヲ入毛利二ノ郭ヲワタス杉浦本丸ヲ堅
守テケレハ申ノ下刻ニ本丸落去杉浦自殺ス城兵三
十六人打死ソレヨリ岐阜ノ町口マテ押寄ケレ尺城兵
皆引取タルアトナレハ無別條町口ニ陳ヲハル
三成カ加勢栢原川瀨イワレモ今日フセヤニ兵ヲ出シテ

カタメタリトイヘ氏惣勢敗レテ各出九へ引トル磯野平
手即ハ今日ノ様子ヲ王成ニ可告トテ大垣へ退
東國勢高名

武藤掃部 津田新十郎 澤井左衛門 平井弥二右衛門

平井兵右衛門 安孫子善十郎 森勘解由 小坂助六

堀田小三郎 安井將監 吉田平内 堀田將監

八嶋吉十郎 武藤清兵衛 稻熊市左衛門 林藤十郎

廿三日 昨廿二日ノ夜關東ノ諸將各參会ス今日ノ城責
ヲ評議シ各先ヲ争福嶋政則云ケルハ今日各約ヲタカ
ヘアイワラナサス甚不快也シカルニ明日又輝政先陳ト

アラシニハ大事ノ前ニテ輝政トサシテカユル外ハ毎之不
入トニ先ヲ争異論アルヘカラス今日ノ大手一番乗ハ
正則タルヘシトイヘリ輝政モ理ニラレ井伊本多カ指圖
次第也ト云此城東南ハ谷深クキレ其間ニ深田多シ或
ハ高峯ソヒユ北ハ長柄川ノ切キレ高シ此三方ハ人馬
ノカヨイナレ只面一方ニ七曲百曲水ノ手トテワツカ三
筋ノ道アリトイヘ氏險岨ニメノホリニクシ先大手七曲
口ハ福嶋正則加藤左馬助嘉明細川越中守忠興等也
搦手百曲ハ池田輝政先陳タルヘシ大垣ヨリ後誥ノ押
勢ハ黒田田中生駒藤堂羽柴伊賀守戸川肥後守等也

福嶋正則昨日岐阜城下ノ合戦ニ不合_一ヲ憤テ拂曉
ニ只一手一番ニ大手ヘツク加藤嘉明細川忠興カ兵
相ツク福嶋伯耆守一陳ニ進ンテ敵ヲウツ山下ニ
ライテ城兵津田藤三郎相戦寄手馬ヲ乗放シカツキ
ツレテ坂ヲノホル正則カ兵梶田新助坂中ニライテ敵ヲ
ウツ木造カ兵奥田左太郎後任松平
隱岐守強弓ノ精兵ユヘ
寄手ヲ散々ニ射立ツ正則カ兵大橋茂右衛門カ戦
ス城兵津田藤三郎大岡角助伊藤長八和
田孫大夫齋藤憑之介織田兵部十野左兵衛伊達平右
衛門武市善兵衛大野善八木田弥左衛門相支テ寄手

ト戦正則カ兵傍嶋多兵衛敵ト組テ谷ヘ落渡边弥兵
衛言ヲカケテ傍嶋ヲタスク無藤ソブラノ木戸口ニテ
城兵中嶋傳右衛門布川次郎兵衛齋藤新五郎相支ユ
細川カ兵瑞龍寺ヨリ岐阜ヘツホム人衆ニワタシ合テ安
賀山庄右衛門後改
隼人西郡大炊助牧新五後改左
馬允岡村半
右衛門中嶋左近中瀬新兵衛トト一処ニ居テ戦功アリ
箕戸口ニテ有吉與太郎後改長
岡内膳十八歳ニテ組打柳田
五郎助野尻隱岐守田井助八戦功アリ澤村才八大手
門口ヘ一番ニ付城兵中嶋傳右衛門齋藤市左衛門中城
寺孫
二人氏
ニ母衣伴吉右衛門母衣ヲ
カケス三人トセリ合中嶋ト組テ

下へ七八間コロフ處へ伴来テ中嶋ヲスキイオハラヤ
リツケハ子ケレハ又下へ二三間コロヒ落オハツイニ中嶋
カ首ヲ取オハハ七箇処手ヲ負漸木道マテハイ上ル処
オハ縁者矢野六九衛門同龜之助来テオハラタスケ忠
興カ前ニ出ル正則嘉明モ其場ニアツテオハラ感ス長
岡カ兵沼田小兵衛後改長岡
勘解由荒木左助後改
山城瑞龍寺ノ
方ニテ高名忠興弟玄番頭篠山與四郎金守半助久条
三太夫森忠三郎米田與七郎千時十五歳後
改長岡監物各本丸ノ石
壇へ早著其外米田助右衛門澤田次郎助水嶋源助石
田平八岩村新藏也家老松井式部少輔後改長岡
佐渡守深手

ヲ負正則カ兵吉村又右衛門澤村ト相ツ、イテス、ニ
出丸ノ新矢倉ヲ取ル寄手コ、ニアツマリ家々ニ戦功ノ
者アリツイニニノ郭マテ押詰テ寄手息ヲツク處正則
カ兵長尾隼人内へ乗入門ヲアケケ惣勢本丸ノ際マテ
押寄城ノ門ヲ堅クシメ置ケレハ寄手入トナラス其内ニ
細川忠興加藤嘉明本丸大手ノ門キワヘツメ正則モ来
リ池田以下アツマリアツカイヲ入秀信降參也
池田輝政モ正則ニツイテカ、リケルカ正則カ兵惣構
ノ内へ火ヲカケ、ルユヘ池田カ兵煙下ニナリテ兼水原ヲ
メクリ長柄川ノ边へ出水ノ手へ攻入池田カ兵旗ヲ城

中へテケ入テ一番乗トテノリ本丸マテツメヨスル也水ノ手へ

落人多アツマリ
首教池田手へ多

京極ハ柴田勝家カ旧屋敷荒神ノ洞ノ

方ヨリノリ上ル百曲ノウラノ門へ京極カ兵増田藏人

以下七八人ノリ入ウラミ千ヨリヒツカニアカリケレハ

守ルモノ一人モナシ城兵コノ寄手ヲミテ悉ク天主ノ

内へ入ルコノユヘニ増田天主郭ノ門ヲ内ヨリサシカタメ

寄手ヲアケスツメノ城天主郭京極一番乗テリト云福

嶋カ兵岐阜本丸一番ニノリクツシ既ニ中納言秀信和

睦ニテリテノ一ナレハ一番ノリハ福嶋テリト云へ凡増田

等門ヲアケスコレニ寄手ツカユ京極修理大夫ハアトニ

有之ケレハ修理大夫方ヨリ門ヲアケヨトノ證文来ラハ

アクヘシトアツテ高政へ其旨ヲ通シ高政ヨリ證文狀ヲ

竹ニハサシ門ノ内へ入ル、ニ付テ則門ヲアクルテリ京極

家人渡邊江左衛門西尾喜左衛門等戦功アリ

岐阜中納言秀信ハ廿二日ノ戦ニコトクク城兵ウタレ或

ハ疵ヲ蒙或ハ直ニ落失ケレハ守城ノ一ヲ評センタメ

ニ木造ヲ招ク木造ハ八嶋町口ヲ堅メケルカ秀信廿二日

ノ夜中呼ヨス木造持口ニ兵士ヲノコシ本城へ入ントス

門々コトククサシカタメテ一人モ不入木造取々ニテテノ

ルトイヘ凡兵士ノヲトモセサレハアクル一ナシ無程夜ア

ケルユヘ無藤ツブラヘアカリウツミ門ノワキノ石垣ヲ
ツタイヤフヤク内ニ入此時津田勘八相ツ、イテ能働アリ
秀信感書ヲ与此門ヲサシカタメタルニ付テ城兵内へ入テラ
ス大方直ニ落失タル輩多也木造内へ入ル時分ニ加藤
嘉明カ兵ツ、イテセメ入りシ也而メ本丸ニライテ秀信
自害アルヘキトアリシヲ木造百々色々ニ諫メ矢倉ノ弁
テヨリ小田笠ヲ竿ニ付テフリ矢留ヲサセ寄手ノ内沢井
左衛門森勘解由等モトヨリ木造ト旧友ナレハ取アツカ
イテ和睦ニナレリ秀信ハ信長ノ嫡孫ナレハ福嶋池田各
申合テイタキ取也此時秀信硯料紙ヲモトメ昨今戦功

ノ輩ニ各感書ヲ與工城中ニ居ノコル兵士ワツカニ三十
六人壬戌カ加勢川瀬左馬助大西善左衛門合テ三十
八人也八月廿三日午刻落城

木造左衛門佐 百々越前守 梶川才二郎跡三郎子 入江左道

飯沼十左衛門勘平事也 山田又左衛門 瀧川次兵衛 和田孫大夫

津田藤右衛門 同藤三郎 大岡左馬助 織田左衛門秀信弟

織田兵部 十野左兵衛 伊達平右衛門

各戦功アリ

武藤助十郎 足立中書 齋藤齋宮新五郎子

此三人廿三日ノ曉長良川ヲコシテ北山ノ手ヘ落行也故不

逢合戰岐阜落城ニ付福嶋池田兩將ヨリ兵士二十騎旗
一本ツ、ツカワレ城ヲ守ラシム

因幡山ノ取出ニハ栢原彦右衛門尉同内膳父子川瀬左
馬助松田十太夫赤尾四郎兵衛以下指籠ル廿三日ノ卯ノ
刻ニ淺野左京大夫一柳監物并伊本多力軍勢瑞龍寺山
ノ西ノ麓ヨリ押上ル川瀬左馬助ハ岐阜城ノヤウス無心
元トテ本城ヘ行自取出
十八町赤尾コレヲハジ、メケレ氏不用
栢原父子其外相殘ル軍勢甚力戰ス寄手淺野幸長カ
兵龜田權兵衛後改
大隅箕浦新左衛門原傳三郎戰功アリ
傳三郎精兵ニテ六人マテ城兵ヲ射フセタリ淺野喜八

郎伊藤八左衛門同又兵衛屏ヲ乘テ打死ス林水右衛
門三州
住人城戸ヲキリアケ能敵ヲウツトル友松弥五左衛
門深手ヲ負ヒ十カラ敵ヲウツ佐々忠左衛門カ若黨杉
澤源丞栢原トワタシアワセテ榎原ヲ討取并伊直政カ
家人山中主膳戰功アリ城兵コトククウタレ城陷ル赤尾
ハ深手ヲ負赤坂マテ引トル

中納言秀信ハ上加納村ノ一向道場ヘ入置コレニ十月廿
八日マテ逗留メ後ニ高野山ニ至ル其時供ノモノ伊藤平
右衛門安達中務竹内三九郎荒木木工左衛門山井采
女正高橋一德齋森次右衛門越地多左衛門也

秀信事初会津発向ノ催促ニヨツテ七月朔日ニ岐阜ヲ
可立用意ノ處ニ石田三成カ方ヨリ川瀬左馬助ヲ使ニ
シテ隱謀ヲ企ルコトヲ云ラクル秀信木造百々ニ相談ス
兩人諷諫ストイヘ氏不用電臣入江左近伊達平右衛門
高橋一徳齋シキリニ申ス、メケレハ秀信モ三成ニ黨ス
秀信コトハ前田玄以法印諸事指圖ナレハ木造百々イツ
キ出京メ此事ヲ談ス前田キイテ會津へ出張可然ト
堅ク諫ム兩人イツキ歸ルノ處ニ秀信佐和山ニ至ル王
成人ヲ道ニライテ鳥本ノ宿ニライテ兩人ヲマケウケ
佐和山へマ子キ種々馳走ノ上既秀信如此上ハ兩人異

儀ヲ不可存ノ由ヲ告兩人岐阜へカヘリ諸臣ヲ集メ相
談シケレハ飯沼十左衛門云ケルハ秀信ステニ佐和山へ御
出ノ上ハ會津へ発向アリ氏云ワケ不可立ノ間三成ヤカ
テ爰元へ来レル時分可打捕ナト、云ケレ氏秀信同心ナ
クシテツイニ如此ナレリト也秀信ノ人質母義并二歳ノ
息女 江州甲賀旗頭和田大藏少輔高 大坂ニアリ秀信上
盛カ男和田孫大夫カ娘ニ出生
加納ニ蟄居ノ間ニ孫大夫即大坂へ出母義二歳ノ息
女ヲヌスニ出シ九月朔日ノ夜江州へ来ル處母儀ハ行
歩不叶ユヘニサシ殺シ首ヲ下人ニモタセ息女ハワレ来ル
江州土民是ヲ養後ニ佐々木兵衛督義卿カ妾タリ後

秀信於高野山病死

大垣ヨリ岐阜ノ後詰トメ石田三成嶋津義弘呂久川ノ
辺マテ出張石田カ先手杉江勘兵衛森九兵衛以下コト
コトク神戸ノ川堤ニ備フ後詰ノ押勢トメ諸手皆神戸
川ニノソムトイヘ厄サシモノ大河ナレハ無左右コシカタシ
諸手ヨリ瀬踏ヲ入テ考之田中兵部少輔吉政ハ元ヨリ
所ノ案内者タリ 田中元仕関白秀次秀次領美濃尾張江州 トイヘ厄若川ノ
瀬カワルヲモアルヘケレハ是ヲ尋シタメ加賀嶋ノ梅箇
寺ノ出家ヲ呼出シ川ノ瀬ヲ問僧コタヘテ詳ニ教ユ尚
能可聞カタメニ懷中ニ三枚入ユキタル黄金ヲ一枚トリ出

ノ僧ニ與ヘイヨク委ク問

此時歩行武者野村ト云モノ一人供セリ

サテ陳中ニ

カヘリソノ処ヘ三郎右衛門ト云輕卒ヲ瀬踏ニ入テ跡案

内ヲシルコノユヘニ一番ニ田中神戸ヲノリコス

三郎右衛門此瀬フ

ヲヨクイタセルユヘ田中則神戸ヲ以テ氏トセシム或云乃川肥後寺正利加賀嶋ニ至テ田中カフトコロヨリ金子ヲ出メ僧ニツカワスヲ見テ歸リ黒田ニ告ク黒田田中ニ向テ瀬ヲトイ田中カコスヘキト云処ヲ黒田ウキ入テコスコノユヘニ黒田一番越ト云云 ツ、イ

テ黒田藤堂等ノ諸大小名ウキ入ク川ヲコス三成力兵

一丈ニモ不及敗北ス杉江勘兵衛後殿シテ引處ヲ田中カ

兵辻勘兵衛

後改肥前

コレヲ鎧付テ先ヘトラリ別人ヲ討西

脇立右衛門杉江トカ戦ノ突アフ内西脇疵ヲ蒙ノ処松

原善左衛門ハレリ来テ杉江カ首ヲ上田中カ兵宮川

市左衛門後改 大炊 一番頭ヲ取中村采女後號田中采女 川口九郎

左衛門皆力戦ス逆徒ノ先勢コトクク敗北シケレハ手

成義弘モ呂久川ノ边ヨリ大垣ヘ引カヘス凡ソ神戸ヨリ

呂久川マテ其間 二里 王成力兵皆追ウタル藤堂高虎カ家人

藤堂玄番允宮田ノ卿民ノカキアケノ要害ニ入テ卿民

ヲテテキリニイタシ名主山田五兵衛ヲ案内者トシ呂久

川ノ水上落合ヲ一番ニノリコシ赤坂ノ宿ニ入り放火セ

ントセシ処ニ赤坂ノ名主百姓町人出合テ放火ヲユルサレハ

爰元諸事案内可仕旨乞ニマカセ即赤坂ノ放火ヲユルシ

諸手ヘモ其旨ヲコトワルユヘニ赤坂ニ陳取テ諸事ノ勝

手利アリケレハ高虎大ニ喜テ玄番ヲ賞美ス戸川肥後寺 正利カ兵岸

本五郎右衛門同與右 衛門戦功アリ

廿三日ノ晚ハ諸手コトクク赤坂近所ニウキ入テ陳ヲ

ハル一柳監物ハ廿三日瑞龍寺以後木 砂渡ヲカタメ廿四日赤坂ヘコユ

長松ニハ武光式部少輔在城ノ王成ニ一味ストイヘトモ

今日岐阜落城ヲキイテ廿三日ノ晚長松ノ城ヲアケテ

勢州素名ニ趣氏家内膳正カ方ニ至ル

今日東國方ノ寄手悉ク赤坂ニ入テ陳ヲハル王成大ニ驚

諸方ノ寄手ヲヨヒヨス宇喜多秀家ソノ比ハ太田ヲサシ

フサイテ陳ヲハル先迎所ナレハ秀家乃大垣ニ至ル秀家

カ軍勢大垣ニ著ラ見テ壬戌大ニラソレ大垣騒動ス旗
ノ紋ヲ見^{太鼓}テ秀家ナリト知大垣町玄古カ家ヲ以
テ秀家カ旅館トス壬戌カ方ヨリ阿閉孫九^五郎石尾與吉
ヲ使トシテ雜掌ヲ設ク秀家即壬戌ニ会談メ今夕赤
坂ヘ夜討可然トス、メケレ氏壬戌不同心

嶋津義弘カ兵ハ洲侯ヲサ、ヘシメケル是ヲモ悉ク大垣ヘ
ヨヒヨス駒野ニハ壬戌カ家人高野越中守高山忠右衛門
尉牧野傳藏蒲生倫中守大場土佐守小川平九衛門以
下二三千ニテサ、ヘシメケル是モ大垣ヘ引入シム北國勢木
谷刑部少輔ニハカ子テ相談ノ一アリトテ大坂ニテ出ヘ

キ由申遣シケルユヘ大聖寺ノヤケアトヲトリツクロイ木
下宮内少輔ニ蜂須賀阿波守カ軍勢ヲサシソヘコメヲキ小
松ノ城ヘ上田主氷寺西倫中ヲ加勢セシメ其外北國勢コ
トククノコシヲキワツカ手廻斗ニテ廿一日ニ大聖寺ヲ立
テ引田ニ付ノ處壬戌行長秀家義弘四人カ方ヨリ廿三
日ノ飛脚到来シ関東勢赤坂ヘ押寄ヨシ註進ニ付大谷
敦賀ヘ引カヘシ北國勢ヲ不殘敦賀マテ引トラセ大垣ヘ
可出ト評議ス

今日石田宇喜多嶋津大垣ノ町ノ問屋松井喜右衛門ト
云モノ、処ヘアツマリテ神戸川ニテフセキシ様子ヲ嶋

津義弘タツ子ケレハ神戸へ出シ壬戌カ兵尾川ハタニテ
防タル由ヲ云義弘キイテ川ハタヲ二町モ三町モシサリ
テコソ防クモノトシ是ホト各弓矢ノ一不心得ニテハ始
終無心元ト云壬戌云ケルハ分別ノ一ハ何事ニテモ我等
ニ尋子玉フヘシ弓矢ノ一ハ万事嶋津ヲタノムヨシヲ云
ヘリトソ

廿四日 昨廿三日ヨリ今日ニ至テ味方皆赤坂ニアツル
赤坂町ノ南岡山ニ陳城ヲカマヘテ其山ノ四方ニ陳ヲハ
ル中山道北ノ山手ニハ加藤左馬助黒田甲斐守藤堂佐渡
守筒井伊賀守晝飯村ニ長岡越中守同東ノ大塚山ニ

福嶋正則岡山ノ北ノ手井伊本多西牧野ニ堀尾山内浅
野荒尾村ニ池田輝政同備中守東牧野ニ中村一角有
馬玄番頭磯部森ニ田中兵部少輔長松ニ一柳監物也

今日秀忠卿野州宇津宮ヨリ 秀忠卿自去比至今日
宇津宮御逗留也 中山

道へ御出馬真田安房守昌幸居城信州小縣郡上田へ
トリヨセ玉フ真田伊豆守力元へ秀忠卿ヨリ御書ヲ賜

小縣へ出向へキ由ヲ被命中山道ノ隨兵ハ榊原式部

太輔康政 上州 館林
十五石 大久保相模守忠隣 相州 小田原
四万五千石 同加

賀守忠常酒井宮内少輔家次 上州 碓氷
三万石 本多美濃守忠政

本多佐渡守正信 上 総長南
一万石 酒井右兵衛尉正親高力左

近忠房奥平大膳家綱松平飛彈守忠昌大久保次右衛

門忠佐高木主氷清秀牧野右馬允康成上州應古松平

下総守清匡奥平義作森右近大夫忠廣信州川中嶋仙石越前

守忠俊信州小諸石川玄番頭康長信州松本日根野徳木後任筑後守

即吉重真田伊豆守信之山口但馬守重政其外甲州先

方芦田衆御供也浅野長政七甲州ヨリ出テ御供ニ可加

旨命セラル或云七月廿八日小山ヨリ直ニ中山道ニ御発向或云八月廿八日皆非也

御旗奉行 日下部兵衛門 成瀬吉右衛門

御使番 土井甚三郎後任大炊助長谷川讚岐守 倉橋内匠助

内藤外記初名右衛門朝比奈源六 久貝因幡守初名忠三郎山田半右衛門

石川八左衛門 今村彦兵衛 米津勘兵衛 内藤金左衛門

川口長三郎 達山勘左衛門 鶉殿兵庫 戸田倫後守

牟礼江左衛門 岩瀬吉左衛門 安藤次右衛門 山岡五郎作

信濃木曾侍知村山村浪人タリシラカ子テ源君被召出ラカ

レケル此度信州木曾御手ニ入コトク可仕旨仰付ラル秀忠

卿ニサキ立テ木曾路ニ行コノ比木曾福嶋ノモノ氏ノ人

質ハ皆大山ニ入ラキケルカ兩人福嶋へ押入コトクク福嶋

ヲシタカヘケレハ福嶋ノワトラルハ上ハ人質ヲコロシテ益

ナシトテ大山ヨリ皆人質ヲカヘシ又此時山村鳥井峠ノ

コトタナライニテ福嶋ハ童子細手ニ可入間無事故乗取

タル由関東へ註進可然ト云各サキモシレサルトイカト
云シテ山村夕ツテ申ケルユヘニ知村モ同心ノ連署ノ註進ヲ
申上ケルト云々 知村山村ハ武田信玄ノ家
人本曹カ方ヘノ興副也

廿五日去ル廿二日木曾川ヲ乗越岐阜へ取詰ルノ由註進
ノ狀今日江戸へ到未則御書ヲ清洲侍從吉田侍從淺
野左京大夫黒田甲斐守加藤左馬助丹後侍從 京方へ
極

被下

廿六日伊勢阿濃津城兵力尽テ和睦シ城ヲワタス津城
ハ雷田信濃守知信カ居城也七月十九日逆徒毛利宰
相秀元吉川藏人廣家完戸安藝守隆家 輝元伯
母駕 鍋嶋信

濃守定茂長曾我部宮内少輔盛親中井式部少輔有澄

山崎右京亮定勝蔭田権佐松浦安太夫宗清堅田兵部

廣澄 輝元
名代 長東大藏太輔正家サシソフテ都合三萬余是

ヲ攻雷田ハ会津発向ノ夕メ関東ニ下ル留守ノ兵堅ク

守之此事小山ニキコヘ雷田以下先立テ歸城分部左京

亮相トモナイ船ヲ催メ五十余艘ニテ渡海ス海上ニテ

イテ九鬼大隅守嘉隆カ兵船稻葉藏人カ船カトアヤシ

三ノリヨセ一度ニノリシツメントス 九鬼ト稻葉
元ヨリ不和 ルノ処ニ雷

田分部カ船ナレハ不及子細コレヲトラス而メ雷田毎難

津ニ著長東正家津へ兵船ノ著タリトキイテ大ニ騒動

レトルモノモ不取合コトクク敗軍シ寄手皆引トル其間
ニ雷田城ニ入ル分部左京亮上野ニカヘリ 津ヨリ五十ケルカ
町北西ノ方
上野城要害ヨロシカラサレハ城ヲワリステ、津ノ城へ
ツホム古田兵部少輔信勝モ松坂へ歸城ストイヘ氏逆徒
イマ夕松坂へヨセ来ラサルカユヘニ 自津迄松
坂四里 兵ヲ分テ津
ノ城ニコメシム長束正家今度敗軍天下ノ人口ニノリケ
レハ今月廿三日ヨリ又寄手ヲ催促シ城ヘラシヨセ昼
夜ノサカイモナク城ヲ責廿四日寄手毛利秀元古川ノ
西ノ方ヘマワリ南ノ口ヨリヨセ案内者藏田弥四郎ヲ以
テ順路ヲ考 弥四郎ハ織田隼人カ家人也津ノ城見分ノ
夕メニ松浦安太夫カ方ニ使トシテ来ル松浦

方ヨリ案内者ニ秀元ニ 攻ヨスルコトヲハ 分部左京亮持堅
ワカワスナ時十九歳也
ム吉川藏人等キヒシク攻ケレハ城兵皆内ニ入松浦カ兵
當世山ヨリ城へ寄ス長束下知メツイニ外郭ヲセメヤフ
ル城兵藏田弥九衛門同甥喜左衛門戦功アリ藏田奥
右衛門古川庄助引橋ヲハ子城戸ヲロス是ユヘニ寄手入
テラ不得長束カ兵家所帯カ兵ヲ引トル雷田カ兵上田
吉之丞 馬藝
達人 古田兵部少輔カ加勢佐分利九之丞原十
兵衛林惣右衛門小瀬四郎右衛門 後仕浅
野長晟 各戦功アリ
此外伴三左衛門十郎右衛門兄弟門キワニライテカ戦
ス 伴元甲賀人此時公道阿弥ニ命メ伴ヲ甲賀ニ至テ甲
賀地侍トシテカカタライシツムヘキトアリシ奉書ヲ得トイヘ

不顧城ニ指籠 逆徒秀元カ兵中川清左衛門一番乗ヲ

後仕淺野長晟 衣紫母 井上清右衛門ハ城ニマキレ入テ首ヲ

得テカヘル凡廿三日ヨリ廿五日マテ三日三夜ノ城責ニ

城兵力屈シ廿六日和ヲ入テ雷田知信剃髮ノ一身田門

跡ノ室ニ入ソレヨリ高野山ニ趣ク逆徒中井式部山崎右京

亮蔭田權佐ヲ津ノ城ニ入ル 雷田後領伊豫守和嶋

廿二日味方木曾川ヲコレ岐阜ノ城下ニラシツムルノ由

井伊本多方ヨリノ註進今日午刻江戸ニ參著則御書ヲ

兩人へ被下

今日公前田利長家臣村井豊前守ニ御自筆ノ御内書

ヲ賜 村井于時隨利長母芳春院在江戸 テ利長大聖寺表ノ働ヲ感セラレ

芳春院ヲ慰勞セララル

廿七日逆徒阿野津ノ寄手鍋嶋信濃守定茂兵ヲ率ノ

松坂城ヲ圍ム城主古田兵部少輔信勝堅守ル然処ニ信

濃守カ父加賀守直茂カ子テ源君へ志ヲ通シケレハ使

者ヲ信濃守カ元ニ通シ城責毎用ノ由數度諷諫スコレ

ニ因テ松坂城ヲ遠卷ニイタシテ日ヲ送ル

稻葉藏人通茂カ居城岩手逆徒九鬼大隅守嘉隆急ニ

是ヲ攻ルトイヘ氏通茂堅守ル九鬼ツイニ兵ヲ引テ鳥羽

ニカヘル山田ノ中嶋庄藏ト云祢宜屋敷城ヲカマヘテ逆

徒九鬼ニ與ス稻葉通茂岩手城ヨリ兵ヲ出メ攻之

自中嶋迄

岩手共
間一里

中嶋堅守ルソノ内ニ鳥羽ヨリ後誥ノ沙汰アリ

ケレハ稻葉引退初メ九鬼大隅守嘉隆隱居イタシ嫡子長

門守守隆ニ鳥羽ヲワタス今度長門守関東ニ下向ス木

隅守元ヨリ稻葉藏人通茂ト不和互ニ遺恨ヲサシハサニ

ケルニ今度稻葉源君ニ属シケレハ大隅守ハ逆徒ニクミシ

幸平日ノ遺恨ヲ散セシタメ如此ノトリ合ライタスナリ木

隅守即熊野新宮堀内安房守ト云合セ兩旗ニテ志摩國

カモト云処ニテ長門守ト父子ノ合戦アリ家中氏ニ父子

兄弟ノ合戦ヤムトナシ伊勢コシカノ浦ニ長門守番船ヲ

ライテ大隅守カ領分濱嶋ノ人民ヲテヤマスソノ比秀頼

卿ノ船奉行村上彦右衛門義清菅右衛門ハ并毛利家ノ

軍船氏伊勢尾張へ船ヲマワストキ右ノ番船ヲノツトル

是ニ因テ伊勢アノリノ沖ニテ長門守カ軍船五六艘

ヲ出メ水師アリ長門守内九鬼宮内

日ノアシ
ノ指物

戦死ス而メ

村上等鳥羽へ船ヲ入ル

廿八日岐阜落城ノ註進今日藤堂高虎カ使者池田忠

兵衛參著源君御前へ被召出高虎小山ニテ約束ノ通早

早註進御悅著ノ旨ニ付池田ニ黄金ヲ被下也而メ淺野

長政カ元ヨリ又源君へ告来ル即御返簡ヲ賜テ左京大

夫幸長瑞竜寺ノ取出乘崩シスルヲ感セラル且又未
月朔日御出馬ニ付秀忠卿ハ中山道ヨリ御進發テレハ長
政供奉可仕ノ旨被仰付長政其比甲州ニ蟄居
廿九日岐阜落城ノ旨井伊本多兩人ヨリノ註進狀今日
到未即明日御出馬ノ旨ヲ秀忠卿ヘツケラレンタメ大久
保助左衛門ヲ信州ニ被遣
村越茂介清洲ヨリ江戸ニ歸岐阜ノ次第ヲ言上ス
今日景勝押勢ノ輩ニ賜御書告明日御出馬命景勝押
勢之法

景勝及佐竹真田三ヶ所ノ押

常州鍋掛

要水

水谷勝隆

伊勢

皆川信正

山城

下総結城

景勝佐竹之押

多賀谷重綱

修理大夫 秀康卿老臣

野州宇都宮

本城結城少將秀康卿二郭小笠原信濃守秀政三郭里見忠義

佐野政綱

修理大夫

房州立山

景勝水戸押

榎木某

大膳里見老臣

上州厩橋

要真田沼田

平岩親吉

主計頭

初秀忠公御供

同三之倉

右同

松平一生

新二

野州馬山

要景勝

成田泰親

左衛門尉

同那須

同

服部石見守

半藏子輕卒二百人長

同那須衆

那須左京大夫

福原淡路守

太田原備前守 芦野左近

大関土佐守 千本山城守

岡本宮内

岡部長盛 内善正

上総勝浦 要水戸 植村土佐守

同佐貫 左馬助 内藤政長

下総矢作 要景勝水戸 鳥居忠政 左京亮父於伏見戰死故切乞供奉而無御赦免

同小義川 同 松平忠利 主殿助右同

同布川 同 松平信一 伊豆守

奥州米沢 要景勝 伊達政宗 政宗在仙臺

同中村 同 相馬義胤 長門守

同津輕 同 津輕為信 右京亮

同南部 南部信直 大膳大夫

羽州山形 寂上義光 出羽守

同坂田近所林崎 戸沢政盛 九郎二郎

同由利

同 同時東海道并所々城番手

駿州沼津 未勘

同州真國寺 龜山城主内藤信正 紀伊守 守之菅沼志十守 新八守

府中城其兵士又加守此城 城主中村彦左衛門一榮開之

同州府中志菅沼定仍志守之城主中村角

同州田中未勘

遠州掛川三左内藤信成衛門守之城主山内對馬守

同州濱松肥後保科正光守守之城主堀尾信濃守

但関原戰後正光守越前北庄

同州横須賀筑後王宅康貞子康信守守之城主有馬玄番

但戰後康貞守勢州龜山城

參州吉田和泉松平家乘守守之城主池田三左衛門輝

但戰後家乘守東名城

同州岡崎左馬松平某左北条氏勝左衛門守之城主田中

民部守之民部

同州西尾 城主田中兵部太輔守之

同州苜屋和泉水野忠重守死後勝成六左守之勝

成兼命守曾根

尾州清洲左衛門石川康通太夫松平家清玄番守之城

福嶋開之家清後守大山城

尾州師崎又七郎任松平家信紀伊守小笠原安元新九同

信元安藝千賀重親孫兵守之

此地要舟道也若道中難通御渡海之用意也是要九

濃州苗木城主岩村城主高山城主

右三ヶ所黨逆徒故山村甚兵衛千村平右衛門攻

陷之為加勢小笠原鞞負知久伊左衛門今泉五助

兼鈞命加之

井伊直政居城

上州高崎

常呂輪酒井家次居城

同笛吹 未勘

諏訪賴水

因幡守

守之

賴水從台駕至真田再因台命又未守之

信州妻兒城

要岩村

小笠原左衛門信之守之

同波合 未勘

飛彈高山

妻木雅樂助攻陷之

則恩賞此地

山名禪閣

中務太輔豐國

兼鈞命至但馬

本國故令彼平均焉

27X
No. 21
49

臨之為加學小堂原動有無天作在衙門今無其

家如伴如之

上門為時

柳池類本... 舟之...

同箱吹

信別事况

小堂原在衙門信之...

同我合

飛輝高

...

山名

...



